

**地域連携 学生フォーラム**  
**in 大阪 2016**

**報告集**

**主催：特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪**

## 目 次

◎巻頭言 .....	1
◎次第 .....	2
◎各大学の発表	
【発表①】 泉佐野市の訪日外国人誘客促進のための取り組み —犬鳴山地区及び犬鳴温泉の AR (オーギュメンテッド・リアリティー) —マーカーをいれた MAP 作り— 大阪観光大学 観光学部 (泉佐野市・犬鳴山地区) .....	3
【発表②】 関西大学と池田市との連携協定に基づいた商店街活性化・にぎわい創出事業 関西大学・関西学院大学 有志学生 (池田市) .....	14
【発表③】 体験学習法を基盤にした地域連携活動 KU cafe at 扇ヶ浜ビーチ 関西大学 人間健康学部 (和歌山県田辺市) .....	21
【発表④】 地域がつながる場づくり 近畿大学 総合社会学部 (八尾市) .....	27
【発表⑤】 泉州 RUSH プロジェクト&熊取町連携 ～地域プロモーションバスツアー事業～ 大阪観光大学 観光学部 (泉南郡熊取町) .....	42
【発表⑥】 大阪環状線改造プロジェクト 「桃谷アートミュージアム」 大阪成蹊大学 芸術学部 (大阪市天王寺区・JR 西日本「桃谷駅」) .....	49
【発表⑦】 地域のコミュニティ拠点における大学生の地域参加 近畿大学 大学院 総合文化研究科 (文化・社会学) (東大阪市) .....	55
【発表⑧】 河内木綿プロジェクト 大阪経済法科大学 経済学部 (八尾市) .....	64
【発表⑨】 大阪国際大学×京阪百貨店 開業 30 周年記念コラボ商品開発 大阪国際大学 グローバルビジネス学部 (守口市・京阪百貨店) .....	72
◎当日の風景 .....	81
◎広報用チラシ (参考) .....	82
◎参加者アンケート集計結果 .....	84

本フォーラムは、会員大学の学生が地域と関わりながら取り組む研究活動やフィールドワーク、ボランティア活動等の内容について発表し交流することを目的に年に一度開催しています。このような発表交流会を通じて、学生の地域連携に取り組む意識の高揚や自己点検を促進するとともに、地域との連携を行ううえでの配慮ポイントやノウハウを会員大学や自治体関係者等で共有し、会員大学の地域連携活動を醸成する機会としています。

3回目を迎える今回は、学生による主体的なフォーラムへの関わりを目指し、企画段階より有志学生がカフェ・ミーティングの場で様々な意見を出し合い、その実現へと繋げました。

また、発表については、会員42大学に公募し、エントリーのあった6大学9事業全てに発表していただきました。当日は学生による司会進行のもと、多方面におよぶ研究活動やフィールドワーク等について発表があり、学生同士による活発な意見交換と委員による講評が行われました。発表を通じて、大学の特性や地域固有の事情を踏まえたユニークな「地域連携」が体现されていることを互いに理解し、それを自らの活動に応用、工夫することにより、より実のある地域連携活動への展開に繋げる契機となりました。

本事業は次年度以降も継続的に開催することとしています。そして、発表された内容を大学コンソーシアム大阪のホームページ等で公開するなどして学生が取り組む地域連携活動を集約したデータベースを構築し、広く共有、活用するとともに、情報発信に繋がりたいと考えます。

この報告集は、9事業の発表を取りまとめたものであり、会員大学や関係各位の地域連携活動にお役立ていただければ幸いです。なお、発表交流会開催に際しまして、ご協力いただいた関係各位におかれましては、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

平成28（2016）年12月

# 地域連携 学生フォーラム in 大阪 2016 次 第

◆日 時：2016（平成28）年10月16日（日）13：00～16：30  
（交流茶話会：16：30～17：30）

◆場 所：大阪国際交流センター 2階 さくら東

時間	内容
13：00～13：00	開会挨拶・趣旨説明・推進委員 紹介
13：10～13：30	泉佐野市の訪日外国人誘客促進のための取り組み 一犬鳴山地区及び犬鳴温泉のAR（オーギュメンティッド・リアリティー）マーカーをいれたMAP作り— 大阪観光学部 観光学部（泉佐野市・犬鳴山地区）
13：30～13：50	関西大学と池田市との連携協定に基づいた商店街活性化・にぎわい創出事業 関西大学・関西学院大学 有志学生（池田市）
13：50～14：10	体験学習法を基盤にした地域連携活動 KU cafe at 扇ヶ浜ビーチ 関西大学 人間健康学部（和歌山県田辺市）
14：10～14：30	地域がつながる場づくり 近畿大学 総合社会学部（八尾市）
14：30～14：40	休 憩
14：40～15：00	泉州RUSHプロジェクト&熊取町連携 ～地域プロモーションバスツアー事業～ 大阪観光学部 観光学部（泉南郡熊取町）
15：00～15：20	大阪環状線改造プロジェクト 「桃谷アートミュージアム」 大阪成蹊大学 芸術学部（大阪市天王寺区・JR西日本「桃谷駅」）
15：20～15：40	地域のコミュニティ拠点における大学生の地域参加 近畿大学 大学院 総合文化研究科（文化・社会学）（東大阪市）
15：40～16：00	河内木綿プロジェクト 大阪経済法科大学 経済学部（八尾市）
16：00～16：20	大阪国際大学×京阪百貨店 開業30周年記念コラボ商品開発 大阪国際大学 グローバルビジネス学部（守口市・京阪百貨店）
16：20～16：30	講評・閉会挨拶

## 【大学コンソーシアム大阪 地域連携部会 推進委員】

委員長 久 隆浩（近畿大学 総合社会学部 教授）  
委員 山本 章雄（大阪府立大学 地域連携研究機構 生涯教育センター長）  
委員 尾山 廣（摂南大学 理工学部 教授・地域連携センター センター長）  
委員 吉岡眞知子（東大阪大学 学長代行・副学長）

## 【大学コンソーシアム大阪 事務局】

地域連携コーディネーター 中川 邦彦

主催：特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

## 各大学の発表

### 発表①

テーマ名	泉佐野市の訪日外国人誘客促進のための取り組み—犬鳴山地区及び犬鳴温泉のAR (オーギュメンティッド・リアリティー) マーカーをいれたMAP作り—	
連携先	連携：真生印刷株式会社、協力：泉佐野市、犬鳴山七宝龍寺、旅館組合	
本事業に関する 問い合わせ	担当者：辻元 千春	TEL：080-6141-6577 メール：c-tsujimoto@tourism.ac.jp
活動の概要	<p>《添付ファイル参照》</p> <p>私たちがこのマップを作るきっかけの一つは私たちのゼミである。辻本ゼミに産学連携の提案があり、泉佐野の観光復興につなげるために真生印刷株式会社さんと泉佐野市役所の方に協力・指導を受け大阪観光大学辻本ゼミで地域マッププロジェクトが始動した。</p> <p>プロジェクトの目的として関空の対岸にあり、大学がある泉佐野市は地域資源が多いにもかかわらず観光客数が伸びていないことから、泉佐野市の観光の課題と現状を把握し、観光推進の一助となるマップ作りを目指した。</p>	
これまでの 活動実績	3年生ゼミとしての活動のため今年からスタートとしている。	

時 期	内 容	
	<p>提携先の印刷会社訪問から始まり、印刷やメディアに関する座学を通してマップについて学び、泉佐野市の観光の状況について産業や生活の視点から学んだ。</p> <p>その後、旅館組合のヒアリングやフィールドワーク、滝修行の動画撮影等を行い10月の完成を目指している。</p> <p>その合間を縫って、いろいろな観光の視点から地域を見直すということで、熊取町の産業観光としての京大原子炉実験所視察、関空旅博視察、ピーチアビエーション訪問などを行った。</p>	
	2016年6月23日修正	
木曜日	産学連携 辻本3年生ゼミ 前学期の予定	
	ゼミ	内容
4/14	オリエンテーション	前学期の進め方(2本柱)、自己紹介
4/21	企業訪問	真生印刷訪問 紙媒体やデジタル情報を製品にしている企業訪問『印刷概論』講義
4/28	『メディア概論』	講師:真生印刷 メディアと観光の関わり
5/12	泉佐野市の観光現状と課題	『観光や産業から見る泉佐野市の現状と課題』 講師:泉佐野市役所(泉佐野全体及び犬鳴温泉)
5/19	観光まちづくりディスカッション I	ワークショップ1
5/26	観光まちづくりディスカッション II	ワークショップ2
6/2	フィールドワーク	京大原子炉実験所視察
6/4	(6/4土曜日に振り替え)	『関空旅博2016』に参加 課題提出
6/9	MAP制作 I『マップ概論』	マップ作りの要点を学ぶ
6/16	現地調査 I	犬鳴旅館経営者(不動口館女将)に課題・問題点ヒアリング
6/23	業界説明会	近畿日本ツーリスト グローバルビジネスマーケティング事業部 小山聖治氏
6/25 (土)	フィールドワーク	犬鳴山調査 I
6/29 (水)	フィールドワーク	犬鳴山調査 II
6/30	企業訪問	ピーチアビエーション訪問(予定)
7/7	MAP制作 II	印刷のポイント、配布方法を考える
7/14	現地調査 III	新しい視点で観光地を見直す
7/21	MAP制作 III	マップ最終原稿、ARの脚本
7/28	まとめ	発表、AR紹介 夏休みの課題

年間活動計画  
(または活動結果)

#### プロジェクトに参加している学生のリスト

川本海斗※ ※リーダー  
崎須賀祐弥  
仲道由花子  
谷津田樹  
窪川友紀  
程 喆  
刘 瑶

#### 活動の成果

現在、AR マーカーを印刷した地図を作成中で、10月中旬には完成予定である。

#### 研究事業に対する地域からの評価

評価はこれからであるが地域の協力は得ており、地元でいろいろな形でプロジェクトを発表していくことを考えている。

2016年8月26日

『泉佐野市の訪日外国人観光客誘客促進のための取り組み  
—大鳴山のAR（拡張現実）マーカーを入れたMAPづくり—』

大阪観光大学観光学部3年辻本ゼミ

川本海斗、仲道由花子、崎須賀祐弥、窪川友紀  
谷津田樹、程喆（テイテツ）、刘瑶（リュウヨウ）

《プロジェクト概要》

今回のゼミのプロジェクトは大きく3つの要素からできている。

1. 産学連携、2. 地域の観光推進、3. ARの活用によるマップ作りである。プロジェクトの発表内容概要は次のとおりである。

**プロジェクトの目的**

関空の対岸にあり、大学に隣接する泉佐野市には多くの地域資源がたくさんあるにもかかわらずそれをうまく使い観光資源として観光客を増やすことができていないと感じ、地域の観光推進という目標を捉えることができるマップ作りに取り組んだ。

また、単にマップを作るだけでなく、それにかかわる印刷産業はじめ観光産業にかかわる人たちから、いろいろ新しいことを学びたいと思った。地元の泉州地域の印刷会社の協力のもと事前学習を行い、調査ヒアリングに時間を割いた。

また、新しい情報発信「AR」を地図と関連付ける取り組みに挑戦した。

■<学ぶ1>真生印刷（株）訪問・見学

<学ぶ2>『印刷概論』受講 講師：真生印刷（株）

地図を作ることは決定したが、まず地図の原点である印刷とは何かを学ぶために、真生印刷（株）訪問及び『印刷概論』受講して印刷の基本を学んだ。

パートナーとなる真生印刷（株）を表敬を兼ねて視察訪問した。印刷の原理や色の配色について基本を教わり、印刷物の重要性を理解した。工場の印刷現場を見学し、印刷とは何かを体感した。



■<学ぶ3>『メディア概論』受講（大学にて）講師：真生印刷（株）

メディアの伝わり方は、視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚この五感で伝わることや、メディアを活用するためには、目的と目標を明確にすることが重要で、①目的とは理由、ねらい、到達地点を明確にすること、②目標とは目的を達成するための具体的な目標を明確にすることを理解した。





## ■<知る1>泉佐野市の現況『観光や産業から見る泉佐野市の現状と課題』受講（大学にて）

どのような地図を作るかを検討するために、泉佐野市まちの活性課木村氏に、泉佐野市の観光の課題と現状について講義を受けた。単に観光の状況だけではなく、産業の視点から講義していただき、新たな知見も多く得た。泉佐野市の現状を産業の視点から幅広く教えていただいた。いろいろな初めて聞くようなことも多くあった。たとえば、起業率が大阪府下で6位、全国で100位だということもわかった。



## ■<考える1>泉佐野市の課題整理

観光の抱える問題点を受講したあと、メンバーで課題を整理した。

### ➤ 泉佐野市の強み

- ・交通アクセスも良く、大阪と和歌山に中間する位置にある。
- ・都市基盤も充実し海あり山あり空港あり宿泊施設がある。
- ・認知度の高い農産物や魚介類がある。
- ・平成27年12月のインバウンド実宿泊者数では全国で10位（宿泊統計）。

### ➤ 泉佐野市の弱み

- ・宿泊客は1泊してUSJや難波など大阪市内に出るか京都や奈良へ出る。
- ・泉佐野市で観光したという声があるのはりんくうタウンという特定エリア。

### ➤ 現状把握からわかることと課題解決策

- ・泉佐野市の中心市街地への観光客誘導策不足。
- ・地域資源は多いがうまく観光に結びつけられないという戦略なき戦術による観光施策。
- ・地元商店街では活力が低下し、シャッター街にもなりつつある。
- ・犬鳴山は自然豊かで旅館での景色もとても美しいものがあるが認知度が低い。
- ・犬鳴地区は夜出歩ける店も少なくイベントが開催されても駐車場スペースが少なく。
- ・バスも少ない 課題は山積みだと言える。

## ■<考える2>泉佐野市のどの地域をテーマにするか

メンバーは議論の末に「犬鳴山」地区をテーマにすることに決めた。

キーワード	課題
犬鳴山	認知度が低い
	駐車場が少ない
	交通アクセスが少ない
外国人	旅館、ゆかた体験したい
	日本に触れたい
温泉・旅館	認知度が低い
季節のイベント	少ない



目標
犬鳴山のマップを作る
外国人が行きたくなるスポットや土産品を紹介
りんくうタウンに負けない



### ■ <知る 2> 外国人観光客を誘致する意義

授業で、関西に進出した外国企業の生声では、「投資に至った決め手は必ずしも企業の事業環境ではなく、文化や住環境等を評価し進出したケースが多く存在する」ことがわかった。対日投資・集客交流促進のため、総合的な情報発信や更なる魅力向上を図ることが重要といえる。観光だけではなく地域を知ってもらうことが、外国人誘致の大きな意義であると認識できた。(7月の『外客誘致論』外部講師講義資料より)。

### ■ <学ぶ 4> 『マップ概論』講義を受けて 講師：真生印刷（株）

地図作りでなにが重要であるか、犬鳴山をどのようにしてアピールするかを考えた。

- ・現地に行って感じたことや面白く感じた場所を詳しく地図に記入すること。
- ・わかりやすい場所の写真をとり地図に載せる。
- ・今回は外人観光客を目的として地図を作成しているので、外国人から見て日本らしさを感じさせ犬鳴山に行きたいと感じさせる。
- ・日本語だけでもわかるように、イラストを多く記載する。
- ・交通機関を詳しくわかりやすく乗せる。
- ・外国人はバスの乗り方がわからないので、乗り方を記入しても面白い。

### ■ <聞く> 犬鳴温泉旅館組合、不動口館女将ヒアリング

ヒアリングではいろいろな意見が出されたが、認知度をあげることが重要だと感じた。



不動口館  
河原女将

	項目	内容
犬鳴山全体	見所は多い	不動尊、行者の滝、大阪一の杉の木、金魚やますの放流など
	女性も出来る滝修行がある	予約制のため当日体験は出来ない
	駐車場	有料が2箇所しかないので、イベント時は利用できない
	アクセス	関空・りんくう行きのバスがあるが20時に終わる
	飲食、土産店	店が少なく簡単にたべたり、買ったり出来ない
旅館	8割が日本人、2割が外国人、日本人の6割が大阪府下から	地元の人に愛されているが、遠方からが少ない
	連泊	1泊がほとんどで連泊がない
	関西空港のおかげ	旅館はまだ予約はいける
	SNS	季節の最新情報をアップしている
	目玉	温泉、自然、国定公園(鶯の鳴き声)
	浴衣	選ぶことが出来るサービス
	FreeWi-Fi	バスなしで使える
Face Book	HPからFaceBookにいける	

■ <歩く> 犬鳴山フィールド調査（ゼミ生が全行程を歩いた）

課題	状況	解決策
駐車場の数が少ない	有料駐車場が二つイベント時は混雑	急には難しい
アクセスが不便	閑空、りんくうからバス直行便があるが20時までしかない	増便が出来るか
外国人には利用方法がわかりづらい	興味があっても交通機関は利用しづらい	情報を丁寧に発信する
PR不足	情報発信量が不足	この旅館等を行っている
認知度が低い	海外にはまったく知られていない	行政の仕事の部分もある
電波が届かない機種がある	機種によって異なる	環境を良くするには時間がかかる
イベントが少ない	ばらつきがある	地域としてイベントを仕掛ける必要がある
歩きづらい(滑りやすい)	昔からの遊歩道のため雨が降ると滑りやすい	前もっての情報提供が必要
ガイドや案内がないと見所がわからない	地図だけでは見所ポイントがわかりづらい	地図に情報を載せる提案が生きてくる
食堂やレストランが少ない	常時あいている飲食が少ない	観光客を増やすほうが先か



■ <感じる> 留学生目線（中国からの留学生）

私たちは犬鳴山にある不動口館を訪問した。その後、犬鳴山実地調査も行った。それを通して、外国人の目線で、色々な発想が出てきた。

1. 緑に包まれている不動口館（旅館）について

➤ 評価

- ・「すごく日本らしいだね！泊ってみたい」という気持ちを強く感じた。
- ・「旅館」という日本特有な宿泊施設で、日本人の昔の生活を体験できる。
- ・外国人の中で大変人気がある浴衣を選んで貸してもらえる。
- ・不動口館の写真を友達に送ると、「綺麗だね！この旅館で泊まりたい」がすぐ来た。

➤ 課題

- ・旅館以外の施設が殆どない。1泊以上の宿泊が難しい。
- ・泉佐野市の認知度が低いため、犬鳴山の認知も高めにくい。
- ・PRの手段も不足だ。館内は英語が使える店員さんがいるが、中国語や韓国語とか、他の外国語を使えるスタッフがいない。

2. 犬鳴山の实地調査を通して感じたもの

➤ 評価

- ・思った通り、ものすごく綺麗だった。

➤ 課題

- ・しかし、もしガイドさんの案内と説明がなければ、旅はできないと思う。
  - ・山の道が険しかった。注意しないと転落とかの事故が起こりやすい。
  - ・道の施設もとても古くて、壊れたのが多い。安全は第一だと思う。
  - ・犬鳴山の地図が読みにくいと思う。

➤ 対策

- ・「犬鳴山の滝修行」をもっと力を入れて宣伝する必要があると思う。
- ・女性も体験できる修行だとガイドさんから聞いた。ものすごくユニックな感じだ。
- ・これは外国人だけではなく、日本人観光客にも魅力があると思う。
- ・犬鳴山エリアには、日本伝統的な旅館もあるし、綺麗な自然風景、犬鳴山と滝もあるし、山の中には

神社もあるし、温泉もあるので、祭りとか、イベントをもっと開催したら。

- ・一番考えなければならない課題はやはり交通アクセスの問題。

**プロジェクトの最終目標**

そこで、犬鳴山の情報発信とともに、日本人や外国人にも楽しいスマホで読み取れる AR マーカーを地図に印刷することにした。

**地図の特徴**

- ・通信事情も考慮して、立看板で AR のマーカーを立てる方法も検討したが制限があり厳しい。
- ・地図にマーカーを印刷することで、Wi-Fi がある旅館や関空、りんくうを出発するときにも確認できるように考えた。動画や解説も編集する予定である。

**ところで、なぜ AR なのか**

QR コードが広く普及しているのに、なぜ AR なのか。

**結論**

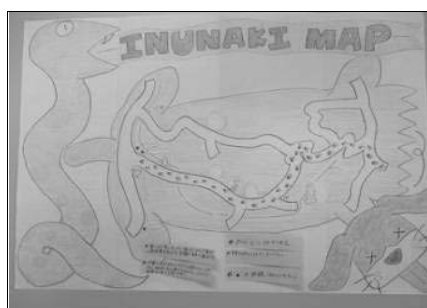
まとめると、QR コードは一般的だが文字情報程度しか扱えず、AR は色々な動作を実現し感動があるが、知名度が低く結果的に費用がかかる。

今回は魅力はいっぱいあるが、情報が少なく観光客が存在を知らない「犬鳴山」の自然あふれる、道の新しい魅力を発信するツールとして AR が最適と判断した。

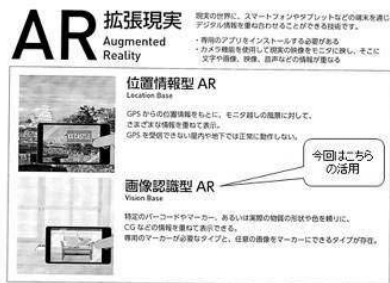
真生印刷のメディア関連講義や泉佐野市の講義、旅館ヒアリング、犬鳴山フィールド調査からどういう地図を作るかを検討し、外国人を含む観光客がイメージを浮かべることが出来る地図を目指すことになった（ただし、AR のアプリを外国人観光客がうまく入手できない可能性もあるため、一部は QR での対応も視野に入れている）。

マップと AR のマーカーを掲載した地図のイメージは下記のとおりであるが、現在、地図の作成と動画の撮影は進行中である。

	QR	AR
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本を中心に世界で汎用している</li> <li>・専用アプリ不要(汎用である)</li> <li>⇒誰でも、見て認識できるレベルの常識的存在になっている</li> <li>・多少破れたり汚れても読み取りに支障がない</li> <li>・QRコードの作成自体はほぼ無料でできる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・驚きがある</li> <li>・専用マーカーを必要としない(ARによる)</li> <li>・カメラ画面上にCGなどを重ねて表示できる</li> <li>・動画や音声などもカメラ画面上で再生できる</li> <li>・QRコード同様、ウェブサイトへのリンクもできる</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな情報しか扱えない</li> <li>⇒URLやアドレスなど文字情報程度</li> <li>⇒直接動画を埋め込んだり、画像を表示するのは不可能で、URLを通じて、「なんらかのウェブサイト」へ飛ばす必要がある</li> <li>・情報が増えるとQRコードが大きくなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専用アプリが必要</li> <li>⇒日本標準、世界標準のアプリがなく、何千ものARがネット上に氾濫している</li> <li>・ネット環境が必要(なことが多い)</li> <li>⇒表示する情報等をウェブ上から取得するアプリが殆ど</li> <li>・スマホでしか使えない</li> <li>⇒アプリのインストール説明が必要になる</li> </ul>
課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発に費用がかかる(コンテンツを制作する場合)</li> </ul>



作成中の地図のイメージ



画像認識型の AR を活用する予定



AR マーカーにスマホ等を当てると動画などが出てくる(イメージ)

以上である。

## 1 泉佐野市の訪日外国人誘客促進のための取組 —犬鳴山地区及び犬鳴温泉AR（オーギュメン ティッド・リアリティー）マーカーをいれた MAP作り—

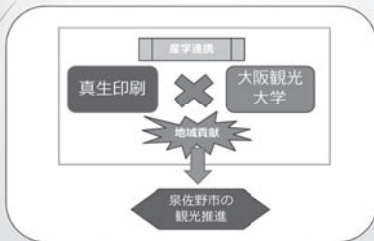
大阪観光大学 辻本ゼミ3年  
メンバー：川本 海人、崎須賀 祐弥  
谷津田 樹、窪川 友紀  
仲道 由花子、藤田 汐理  
程 喆、刘 瑶

## 2 プロジェクトの目的

- 関空の対岸にあり、大学の地元でもある泉佐野市は地域資源が多いにもかかわらず観光客数は伸びていない。
- 産学連携により本格的に印刷やメディアについて学ぶとともにAR（オーギュメンティッド・リアリティー、拡張現実）を活用した地図を作り観光振興に役立たせることを目的とした。
- 観光にモノづくり（マップ制作）の視点をとり入れることで観光とモノづくりの融合を体感する。

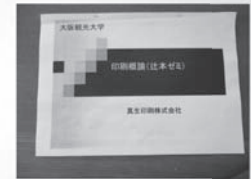
## 3 産学連携パートナー

- 真生印刷株式会社（本社：堺市）
- 地域貢献に全社を挙げて取り組んでいる。



## 4 <学ぶ1> 真生印刷（株）訪問

パートナーとなる真生印刷（株）表敬を兼ねて視察訪問



## <学ぶ2> 『印刷概論』受講

印刷の基本や配色について学ぶ

## 5 <学ぶ3> 『メディア概論』受講

講師アートディレクター河野氏（真生印刷）



### <知る>

### 『観光や産業から見る泉佐野市の現状と課題』

泉佐野市の観光課題レクチャー

## 6 <考える1> 泉佐野市の課題整理

### 泉佐野市の強み

- ・ 観光の課題として交通アクセスも良く、大阪と和歌山に中間する位置にある
  - ・ 都市基盤も充実し海あり山あり空港あり宿泊施設がある
  - ・ さらには認知度の高い農産物や魚介類がある
  - ・ 平成27年12月のインバウンド実宿泊者数では全国で10位
- ### 泉佐野市の弱み
- 宿泊客がどこへ観光に行ったのか聞くとUSJや難波など大阪市内に出ている
  - ・ 泉佐野市で観光したという声あるとしてもりんくうタウンという特定エリア

- 7 現状把握からわかることと課題解決策
- ・泉佐野市の中心市街地への観光客誘導策不足
    - ・地域資源は多いがうまく観光に結びつけられないという戦略なき戦術による観光施策
    - ・地元商店街では活力が低下し、シャッター街にもなりつつある
    - ・犬鳴山は自然豊かで旅館での景色もとても美しいものがあるが認知度が低い
    - ・犬鳴地区は夜出歩ける店も少なくイベントが開催されても駐車場スペースが少なく
    - ・バスも少ない 課題は山積みだと言える。

## <学ぶ4>

『マップ概論』 マップ作りの基本を学んだ



## <考える2>

どの地域をマップにするかをディスカッション

## <聞く> 犬鳴山ヒアリング内容抜粋 犬鳴山旅館組合・不動口館女将河原氏

9 <犬鳴山>

- 不動尊、行者の滝、大阪1の杉の木、金魚・ますの放流、滝修行(ここでは珍しく女性も可)、交通アクセスがよい、泉佐野と日根野からバスが出ている
- 旅館に来られるお客さんの層→宿泊の2割がインバウンド、8割が日本人でその日本人の中で6割が大阪府下で残りは和歌山奈良兵庫など近郊の方である。車で1時間、1時間半で来られる範囲(①堺②大阪市内③泉南地区)。団体は受けておらずカップル、子連れ家族で人数だと2,3~6人程

10

## <課題>

- ・駐車場が少ない、有料駐車場は2個あるがすぐ満車となる、昔は夜の10時までであったバスが今では8時までしかない、宿泊施設が4件あるが温泉街だと思っても周りにご飯を食べるところやお土産を売っているところがない、いつでも気軽に入ることができるカフェがないので必要。ここまで来ているのに道頓堀、ユニバーサルスタジオジャパン、京都まで行ってしまう
- ・旅館の課題は、2泊する方がいない、若い方が来ても退屈、修行は予約が必要だから当日案内しても体験することができない

## <現状>

11

- ・関西国際空港のおかげでこの辺に泊まる場所は多いしインバウンドが全国で7位ぐらい(泉佐野市)
  - ・SNSの公式アカウントがある内容は、桜がもうすぐ咲くよ、魚が入荷しましたなど季節のことや旅館のことアップ。HPからFACE BOOKに行ける。
  - ・一番目玉にしたいのは温泉、自然、国定公園(うぐいすが鳴くなどの自然が1番喜ばれる)
  - ・旅館ではゆかたを選ぶことができる館内はFREE Wi-Fiがあり、パスもないので気軽に使うことができる

## <歩く> 犬鳴山フィールド調査

12

ボランティアガイドの説明を聞き、地図のポイントを考えながら歩いた。



## <結論>

- 要するに、QRコードは一般的だが文字情報程度しか扱えず、ARは色々な動作を実現し感動があるが、知名度が低く結果的に費用がかかる場合がある。
- 今回は魅力はいっぱいあるが、情報が少なく観光客が存在を知らない「犬鳴山」の自然あふれる、道の新しい魅力を発信するツールとしてARが最適と判断した。

## AR 拡張現実 Augmented Reality

現実の世界に、スマートフォンやタブレットなどの端末を通じて、デジタル情報を重ね合わせるができる技術です。

- ・専用のアプリをインストールする必要がある
- ・カメラ機能を使用して現実の映像をモニタに映し、そこに文字や画像、映像、音声などの情報が重なる



### 位置情報型 AR

Location Base

GPS からの位置情報をもとに、モニタ越しの風景に対して、さまざまな情報を重ねて表示。  
GPS を受信できない屋内や地下では正常に動作しない。



### 画像認識型 AR

Vision Base

特定のバーコードやマーカ、あるいは実際の物質の形状や色を頼りに、CG などの情報を重ねて表示できる。  
専用のマーカが必要なタイプと、任意の画像をマーカにできるタイプが存在。

今回はこちらの活用

## <まとめ> 真生印刷のメディア関連講義や泉佐野市の講義、旅館ヒアリング、犬鳴山フィールド調査からどういふ地図を作るか

- コンセプト
- ターゲットは外国人
- ARを使い動画で魅力を伝える
- 地図をイラスト入りでメインにし、手書きで仕上げる

ご清聴ありがとうございました。

大阪観光大学 辻本ゼミ3年  
メンバー：川本 海人、崎須賀 祐弥  
谷津田 樹、窪川 友紀、  
仲道 由花子、藤田 汐理  
程 喆、刘 瑶

発表②

テーマ名	関西大学と池田市との連携協定に基づいた商店街活性化・にぎわい創出事業	
連携先	池田栄町商店街振興組合・池田市役所	
本事業に関する問い合わせ	担当者：池田市役所地域活性課	TEL： メール：
活動の概要	<p>関関（かんかん）COLORS（カラーズ）は池田市の活性化、池田市栄町商店街の活性化を目指す学生団体です。関西大学と関西学院大学の学生が「池田市の魅力をたくさんの方々に知ってほしい、そして池田市を訪れてほしい。」という想いをモットーに様々な活動に挑戦しています。具体的には現在3つの事業を行っていき、①子ども預かり事業では毎週水曜日の夕方から学童保育を、また②空き店舗活用事業では平日の日中に関関（かんかん）COLORS（カラーズ）店舗を地域のコミュニティスペースとしてリトミック、いっ福サロンなど様々な教室の開催を行っております。そして③イベント事業では季節ごとのお祭りを主催したり、地域のイベントにスタッフとして参加したりすることで池田が盛り上がるよう日々活動を行っています。</p>	
これまでの活動実績	<p>毎週の学童保育に加え、活動開始以来毎年商店街にて季節ごとのイベントを開催しています。2013年には池田市名産の池田炭と、池田発祥の日清チキンラーメンを使ったご当地バーガー《池炭バーガー》を商店街のパン屋と共同開発し、現在に至るまで販売を続けています。こちらのバーガーは2015年10月に行われた【全国ご当地バーガーフェスタ】にも大阪府池田市代表として参加し、府外において池田市をPRしてきました。また他にも池田の方々とのつながりを活かした、市民コラボイベントの開催も行っており、2015年10月には【ハロウィンイベント】を子育て情報誌『ママトリエ』との共催で実施いたしました。</p>	



	時 期	内 容
年間活動計画 (または活動結果)	4月～	さくらチキチキパーティー ボランティアスタッフとして参加 大阪池田チキチキ探検隊実行委員会会議に参加
	5月～	子ども預かりサービス 新一年生イベント わんぱく相撲にてカラーズ PR
	6月～	商店街×関関 COLORS 懇親会開催 大学コンソーシアム大阪カフェミーティング参加 井戸端会議にてカラーズ PR 6周年イベント開催 ・ガラポン抽選会、サイコロゲーム・職業体験イベント（キッズネーション）・特設ステージ・池炭バーガー販売
	7月～	大阪大学松村ゼミ「阪大坂流しそうめん」参加 石橋阪大と懇親会 池田市役所にて事業報告会 池田 JC 公開定例会に参加 石橋祭り
	8月～	織姫コンテスト 夏まつり開催 ・ビンゴ大会・特設ステージ・縁日・ゲーム企画（水中宝探し、けんけんぱ）・池炭バーガー販売・弘前ねふた運行 大阪池田チキチキ探検隊実行委員会 会議に参加
	9月～	秋加入メンバーリクルート開始 JC 大綱引き いけおん ・池炭バーガー&カラーズブレンドコーヒー販売・音楽 LIVE
	10月～	大学コンソーシアム大阪にて活動発表
	11月～	チキチキグルメフェス 農業祭
	12月～	冬まつり（内容未定）
	1月～	代替わり 新体制へ移行

#### プロジェクトに参加している学生

上撫敦、小藤陽紀、柴綾香、嶋崎亨、下元朗、杉本郁也、瀧上依里、中井千理乃、中谷茉緒、中村亮太、中元航平、村田明里、渡邊千尋

#### 活動の成果

池田市を告知するツールとしての池炭バーガーの開発や、各イベントへの地元高校生ボランティア参加による商店街関係者の若年化の推進など。

#### 研究事業に対する地域からの評価

大学生ならではの人脉を活かしたイベント運営や、アイデアも体力も必要な学童保育運営など、学生にしかできない活動をしてくれて助かっている。(商店街振興組合 理事長より)

# 関関COLORS

関西大学×関西学院大学

～商店街空き店舗活用地域活性化事業～

1

## 全体の流れ

- ・関関COLORSとは
- ・関関COLORSの特徴
- ・池田市と関関COLORS
- ・事業説明
- ・これからの関関COLORSの目標



2

## 関関COLORSとは

池田市の地域活性化を目的とした学生団体

- ・構成: 関西大学・関西学院大学の学生
- ・活動場所: 池田栄町商店街1番街内 空き店舗
- ・目的: 池田市栄町商店街活性化・賑わい創出事業
- ・事業内容
  - ・イベント事業
  - ・子供預かりサービス事業
  - ・チャレンジスペース事業

3

## 関関COLORSの特徴

- ①池田市役所との連携  
→市役所の助成金により活動資金の援助や市のイベントへの参加など
- ②商店街とのつながり  
→イベント時などにお店とコラボなど
- ③学生自身の考えで活動できる  
→ゼミでないので学生自らが提案し、企画や活動ができる

4

池田市と関関COLORS

池田市の強み

チキンラーメン発祥の地



チキンラーメンを使った名産品を作りたい・・・



5

池田市と関関COLORS

**池炭バーガー**

商店街のパン屋と関関COLORSのコラボ商品

池田青年会議所主催  
「チキンラーメンを使った創作料理」の  
B級グルメ大会で優勝



350円

池田市からの依頼イベントや関関COLORSのイベントにて販売

6

池田市と関関COLORS

### 2015年、鳥取バーガーフェスタ出場

池炭バーガーを通じてより多くの人に池田を知ってもらいきっかけになることができた



## ～事業説明～ 現在3事業を展開中

イベント班

イベント事業

店舗班

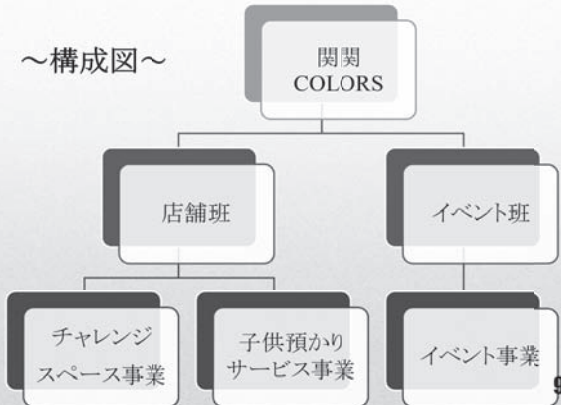
子供預かりサービス事業

店舗班

チャレンジスペース事業

8

～構成図～



9

## イベント事業

- 自分たちでイベントを企画・運営したり、地域のイベントにも参加し、池田市のにぎわい創出、関関COLORSの知名度UPにつなげる。

主なイベント開催場所: 栄町商店街1番街  
その他、イベント開催地

10

## 2016年度イベント報告



11

## 2016年度開催イベント

### 1. 6周年イベント

- ・ステージイベント
- ・池炭バーガー販売
- ・ガラポン抽選会&さいころゲーム
- ・キッズネーション(職業体験)



12

## 2. 夏祭り

・ゲームコーナー  
(おもちゃ氷、  
夏のけんけんぱ)



・ねぶた



・ビンゴ大会

## 関関COLORS店舗班

子供預かり  
事業

+

チャレンジ  
スペース  
事業

14

### チャレンジスペース事業

- ・商店街の店舗を地域の方々に活用してもらい、  
地域の方々のコミュニティの場にしてもらう。  
➡商店街へ来てもらうきっかけづくり

### 子供預かりサービス事業

- ・子供達のチャレンジスペース
- ・子供、学生が楽しめて尚且つ「つながり」を提供  
する場。  
➡子供たちの交流の場



15

### 子供預かりサービス事業

- ・**コンセプト**: 子供達のチャレンジスペース  
子供、学生が楽しめて尚且つつながりを提供する場

- ・**対象**: 池田の1年生から6年生までの小学生

- ・**営業**: 毎週水曜日17時～19時

工作・料理・遊びを学生と一緒に  
➡バレンタインのチョコ作り、段ボールを使って巨大迷路作り



16



↑  
冬まつり  
クリスマスラリーにて

↓  
ハロウィンイベント  
「trick or treat」にて



17

### チャレンジスペース事業

**コンセプト**＝商店街の店舗を地域の方に活用してもらい、  
地域の方々のコミュニティの場にしてもらう

**開講講教室**について

ママヨガ、ベビーヨガ、交流サロン、リトミック、  
スクラップブック、ハワイアンフラ etc



## これからの関関COLORS 理念・ビジョン・目標

- 理念
1. 関関COLORSにしか出来ない社会への挑戦
  2. 地域とつながり愛される組織作り

ビジョン: 人で賑わう商店街、池田市に近づける

- 目標
1. 商店街の人達とのつながり強化
  2. 関関COLORSの認知度向上。

19

ご清聴ありがとうございました

20

発表③

テーマ名	体験学習法を基盤にした地域連携活動 KU cafe at 扇ヶ浜ビーチ	
連携先	堺エコロジー大学、堺市環境共生課、田辺市観光課、田辺市本宮行政局、田辺市森林局、田辺市熊野ツーリズムビューロー、NPO 法人熊野本宮	
本事業に関する問い合わせ	担当者：大原 京	TEL：080-8308-4184 メール：k860979@kansai-u.ac.jp
活動の概要	<p>関西大学人間健康学部安田忠典准教授が担当する私たちのゼミ（3年次「専門演習」4年次「卒業演習」、本年度はそれぞれ15名、23名が所属）の研究テーマは「体験学習」。これまで、キャンパスが所在する堺市とその友好都市である和歌山県田辺市との3者連携による「熊野本宮子どもエコツアー」をはじめ、国交省の補助を受けた環境活動「水辺の楽校」、堺市臨海整備課との協力による「堺浜ふれあいビーチ活性化計画」、田辺市観光振興課とタイアップしての「田辺祭り」への参加等、様々な地域連携活動に携わってきた。</p> <p>こうした活動は、大学や自治体間の関係強化にも一役買っていて、2014年5月には堺市と田辺市が友好都市提携を、そして今年1月には関西大学と田辺市が、過疎地域での地域貢献活動と森林保全活動を通して学生の教育効果を高めようと「大学のふるさと」「企業の森」という2つの協定を締結した。</p> <p>この田辺市との協定の具体的な活動として、私たちのゼミが同市観光振興課との連携で7月15日から8月15日までの1カ月間、同市の扇ヶ浜海水浴場で海の家「KU cafe at 扇ヶ浜ビーチ」を運営した。店舗のレイアウト、メニュー、仕入れ、売り上げの管理等、すべて学生が行い、期間中に3つの地域のお祭りにも参加した。</p> <p>売上や動員数等の具体的な数字については発表時に提示するが、そうした短期的な成果以上に地域の関係者から高い評価をいただいたのは、私たちが参画することによって多くの方が「楽しい」と感じてくださったことに対してであった。</p> <p>私たちのゼミの最大の特徴は、日ごろからアドベンチャープログラム（AP）と呼ばれる体験学習法によるトレーニングを通して「場づくり」を意識している点である。昨年度の年間活動日数はのべ100日。家族のような固い絆で結ばれたメンバーによる30日間の長期合宿を伴った海を家の経営は、何よりも私たち自身に多くの学びをもたらしてくれた。</p>	
これまでの活動実績	<p>人間健康学部が所在する堺市とその友好都市である和歌山県田辺市との3者連携による体験型の次世代環境教育プログラム「熊野本宮子どもエコツアー」を学部1期生から5年間にわたって企画・運営。このツアーは堺市・田辺市・関西大学の三者連携を象徴する事業となっている。また、国交省の補助を受けた市民による環境活動「楽しいんやさかい大和川水辺の楽校」についても1期生から継続的に参画している。さらに堺市臨海整備課との協力による「堺浜ふれあいビーチ活性化計画」、田辺市観光振興課とタイアップしての「田辺祭り」への参加等、様々な地域連携活動に携わってきた。こうした活動は大学や自治体間の関係強化にも貢献、2014年5月に堺市と田辺市が友好都市提携を、今年1月には関西大学と田辺市が「大学のふるさと」「企業の森」という2つの協定を締結。この田辺市との協定の具体的な活動として7月15日から8月15日までの1カ月間、同市の扇ヶ浜海水浴場で海の家「KU cafe at 扇ヶ浜ビーチ」を運営した。</p>	

	時 期	内 容
年間活動計画 (または活動結果)	5/3-4	AP 講習 (リーダー育成)
	5/5	水辺の楽校
	5/6	熊野本宮 田植え
	5/17-18	扇ヶ浜 下見
	5/25	AP 講習 (リーダー育成)
	6/28	AP 講習 (リーダー育成)
	7/4	扇ヶ浜 下見
	7/15-8/15	海の家 経営
	7/24-25	田辺祭り
	8/6	エコツアー事前説明会
	8/8	田辺やーやー祭り
	8/10	熊野本宮 下見
	8/25-28	エコツアー



## プロジェクトに参加している学生のリスト

秋山佳澄、足立亜由美、新井紳吾、泉芽依、上村翔也、大谷璃央、大原京、尾崎菜穂、帯山桜、川原昂、岸本昇馬、木原加南子、小林真希、古村由里香、設楽幸矢、住徳沙弥香、高瀬佳廉、瀧川充紀、竹本壮志、田中涼真、堂岡央丞、中井貴之、中西咲菜、中村亜弥、西田拓司、西塚和貴、野村舞子、服部豪太、日野正嗣、福戸山智明、藤井貫太郎、古川泰蔵、松田拓也、宮川里菜、本橋裕貴、安田拓真、山本あかね、矢本桜子

## 活動の成果

堺エコロジー大学との協力で実施している「熊野本宮子どもエコツアー」は、受け入れ先である田辺市と堺市の自治体間連携を促進し、2014年5月に両市は友好都市提携に調印、本事業はそれを主張する活動として高い評価を得ている。本年度で5回目を数え、参加者数も安定的に推移している。本ツアーは堺市の小学生30名と関西大学学生約30名が熊野本宮で3泊4日間のキャンプを実施するというもので、前後のプレ・アフターキャンプも含めて教育効果が高く、毎年定員を超える応募がある。

また、田辺市との長年にわたる協力関係は、さらなる事業拡大に向けて本年1月に「大学のふるさと」「企業の森」という2つの協定締結へと発展した。そして、本年度は同市観光協会との連携の下で、同市扇ヶ浜海水浴場で海の家「KU cafe at 扇ヶ浜ビーチ」を営業、地域の活性化に一役買わせていただいた。正確な集計は途上であるが、前年度比1.5倍程度の売り上げを計上、期間中3つの地域のお祭りにも参加、SNS等を活用した学生のネットワークによる情報拡散は、これまで届かなかった客層へアピールできたと高い評価を得ている。

## 研究事業に対する地域からの評価

各事業の企画や準備のため学生が頻繁に現地を訪れることから、地域との密着性の高さが特徴で、現在も卒業生である大学院生が本宮地区に居住しながら研究を進めている。

体験学習法を通して「場づくり」を学んだ学生が事業を進めるという他に例のないスタイルは、その手法や成果のすべてがまだ研究途上であり、その総合的な研究には地域の人的、社会的、文化的、歴史的な資源がすべて関連している。地域の方々にはそうした研究について十分な理解と協力を得ており、何よりも非常に強い信頼関係で結ばれている。当然ではあるが、それゆえこうした挑戦的な研究活動が成り立っているのである。この事実が、地域からの評価を明確に示しているといえよう。

## 体験学習法を基盤にした地域連携活動 K.U Café at 扇ヶ浜ビーチ

関西大学 人間健康学部 体験学習研究室

1



2016年 7月15日～8月15日 和歌山県田辺市扇ヶ浜ビーチ

2

## カフェ経営の背景 1

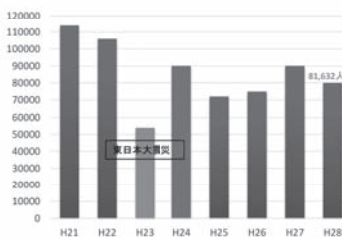


図1. 扇ヶ浜海水浴場来場者数の推移

田辺市では扇ヶ浜を貴重な観光資源であると捉え、来場者を市街地へ回遊させることで市街地の、ひいては田辺市全体の活性化に繋がると考えている。

そこで、古くから親しまれてきた扇ヶ浜海水浴場を2005年にリニューアルオープン。2007年にイルカふれあい事業が始まり、来場者10万人を突破、しかし東日本大震災以来横ばい状態。

その扇ヶ浜ビーチ活性化へのテコ入れ策の一つとして「大学のふるさと」協定を結んだ関西大学に今回の海の経営を打診した。

3

## カフェ経営の背景 2

### 「大学のふるさと」制度に基づく連携事業

関西大学は、和歌山県および田辺市と、地域活性化に関する連携協定を締結することで合意に達し、2016年1月13日に調印式を行いました。

この協定は、和歌山県が実施している「大学のふるさと」制度の趣旨に賛同し、田辺市における人材育成、研究活動を通じて地域の活性化に寄与することを目的としたものです。...中略...

今回の協定締結により、「大学のふるさと」制度ではこれまでの活動を生かし、子ども・大学生・田辺市民の交流イベントや、自然体験を通じた環境学習キャンプツアー、ボランティア活動等を推進します。...後略

2016.1.14 10:35up 関西大学HPより

4

## カフェ経営への参画者

### 【運用者】

関西大学人間健康学部(堺キャンパス)  
体験学習研究室(安田忠典准教授ゼミ3年次生[専門演習]・4年次生[卒業演習]クラス) 総勢41名  
アドベンチャープログラムを軸とした体験学習法を実践研究。体験学習・活動理論等を背景に拡張指向の学びの場づくりの一環として参画。

### 【経営者】

南紀みらい株式会社  
南紀地域の自治体と民間でつくる第3セクター方式のまちづくり会社。  
扇ヶ浜ビーチ全体の経営にも携わる。

### 【提案者】

田辺市観光協会・田辺市観光振興課  
世界遺産熊野古道を軸とした官民共同の観光プロモーション団体田辺市熊野ツーリズムビューローの設立をはじめ、先鋭的な観光開発を進めている。今回の企画提案者。

### 【支援者】

地域住民より、学生が滞在・生活する空き家の提供。

5

## 学生によるカフェの運営1



大学生の感性を前面に押し出し、メニューや店舗のレイアウト、仕入れ、売り上げ・在庫の管理、従業員のシフト、大阪からの交通費まで、すべて学生チームで管理・運営した。

6

## 学生によるカフェの運営2



### 【業務形態】

- ・南紀みらい株式会社と関西大学安田ゼミとのインターンシップ事業。
- ・売り上げは南紀みらい社へ、学生には「人件費(給与)」が同社から支払われた。
- ・仕入れ品目や分量はすべて現場の学生が決定、請求書は南紀みらい社へ。(同社や業者より適宜指導や助言)



### 【広報活動】

- ・学生独自の発信として、ツイッターやフェイスブックによる情報発信を継続的に実施した。これらは、基本的にコストがかかっていない。
- ・現地の新聞(紀伊民報)やFM局(FM TANABE)が報道。

7

## カフェの様子



Hawaiian Beer



8

## カフェ運営の成果1

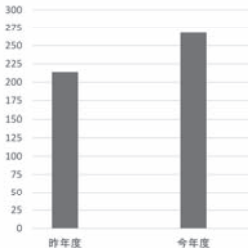


図2. 海の家の売り上げ前年度比

昨年度、南紀みらい社が直営していた海の家の売り上げが35日間で215万円であったのに対して、今年は30日間で268万円であった。ただし、海の家の性質上、悪天候の場合は極端に売り上げが落ちるため、晴天が多かった今年度との単純な比較はできない。

一方で、扇ヶ浜全体への来客数は前掲の図1のとおり、昨年度よりも減少している。来場者の購買意欲は刺激したとしても、扇ヶ浜全体のプロモーションという課題に対しては、まだまだ検討の余地があることが分かった。

9

## カフェ運営の成果2



【地域で開催された3つの夏祭りに参加】



**田辺祭り**(7月24日、25日) 人口減少に伴って激減している笠鉾の引手として参加。

**ヤーヤー祭り**(8月8日) 商店街の祭りにゼミの看板メニュー「射的」で参加。

**扇ヶ浜祭り**(8月13日) ビーチでの祭りにも「射的」&「スーパーボール投げ」で参加。



10

## カフェ運営の成果3



### 関係者からの評価

メンバーが変わりながらも情報共有できていた。



明るい雰囲気でも市民にも好評だった。

南紀みらい株式会社 Hさん



来年度は新たにスポーツイベントなども協力してやれるといいね!

田辺市観光振興課 Tさん

私たちの研究テーマは「体験学習」であって、「域学連携」「地域づくり」等ではない。40名以上のメンバーが、学年や性別の壁を越え、互いを尊重し合い、常に前向きに議論を深め、学外の多様な方々と協力しながら活動するような「場づくり」をテーマとしている。

今回のチャレンジは、あくまでも自分たちのテーマを掘り下げたためのものであったが、そうした活動のあり方自体が、このような「域学連携」「地域づくり」への参画の基盤となるのでは、という気づきを得ることができた。

11

## 行動力の原点1



### アドベンチャープログラム

互いを尊重し合い、協力しながらグループで取り組むアドベンチャー、つまり冒険的な活動を通して、自己概念の変容を待つプログラム。サポート、信頼、思いやりのある環境の中で、潜在的に困難と感じていることや恐怖を感じていたことに挑戦する。次の機会はいつでもあるということを前提として、結果を出すというプレッシャーが強くなりすぎたときなどに「一歩下がる」機会を保障する。様々な課題を設定しながらも、成功することに固執せず、メンバー全員を大切にしながら意思決定をしていく。

このようなプログラムを軸に年間100日以上をともに過ごしている学生たちは、「be here(当事者意識)」「be safe(安全管理)」「be honest(素直さ)」など、社会的活動の基礎を身につけてきている。

12

## 行動力の原点2



### 関大型体験学習法 (K.E.L.P)

従来型の体験学習プログラムを基盤に、現実世界での体験(今回の地域連携活動のような)に繋がる段階的な学びのプロセスを構築。

これによって、従来の体験学習が陥ってきた技法化やマニュアル化あるいは技法自体が自己目的化する閉鎖性を乗り越え、学生が「生の体験」に開かれ、そのような場でこそ起こる自己変容を支援していくという独自の体験学習法。

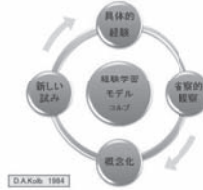


13

## 行動力の原点3



### Have Fun !

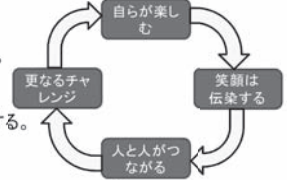


まず自分たちが楽しむ!  
⇒楽しさが伝わるとみんな笑顔になる。  
⇒そして笑顔が溢れると交流の輪が広がる。

©AKiB 1984

### 未来志向

⇒笑顔で交流できる場では居心地がよくなる。  
⇒自分の思いを語りやすくなる。  
⇒みんなが本音で未来を語りだす。  
⇒新しいアイデアやチャレンジを構想し実行する。



これこそがグループや地域の活性化の基盤

14

## まとめ



### Have Fun

### Full Value

- ① 田辺市との連携のもとで、扇ヶ浜ビーチ活性化の一環として海の家「K.U Café @扇ヶ浜ビーチ」を1ヶ月間にわたって運営した。前年度を大幅に上回る売り上げを計上したが、ビーチへの来場者数までは増えず。最大の成果は、地域の方々と「来年はどうしよう。次はどんなおもしろいことやろう。」という議論が始まったこと。
- ② これこそが体験学習法を基盤としたグループ活動を通して未来志向の「場づくり」を実践している私たちにできる地域連携。地域連携を目的とした活動ではなく、地元みなさんに学びの場を提供していただき、それが地域連携につながっている。
- ③ 一緒に汗を流す、ともに悩み考える、地域の方に教えてもらおう、そして一緒に感動する。この「面倒くさい関係」が学生と地域の双方を成長させる。

### Be Honest

### Be here

15

発表④

テーマ名	地域がつながる場づくり	
連携先		
本事業に関する 問い合わせ	担当者：松田 莉奈	TEL：080-5105-6939 メール：rinamatsuda0411@gmail.com
活動の概要	<p>大阪府八尾市を活動の拠点とし、八尾市の自然環境、文化、歴史、教育、行政、産業、など「八尾のまち」に関わる様々な人達をつなげ、イベントや場づくり、情報発信を行う事などを通じて、「八尾ってこんなところええなあ、すきやなあ、おもしろいなあ」という気持ちを八尾に関わる多くの人に訴えかけ、八尾への愛着、つながりをさらに深めることを目指し活動している。</p> <p>&lt;プロジェクト&gt; いきいき八尾環境フェスティバル 「環境アニメイテッドやお」主催で毎年10月下旬に開催されるイベント。八尾の自然環境や文化、歴史など様々な「環境」を八尾市民の方に楽しみながら学んでいただくことを目的に、八尾で活動する様々な団体さんや企業さん、行政や学校の先生方が協力し、実行委員会を組織して企画・運営を行っている。「はちのじ」はそのメンバーの一員である。</p> <p>以上の、フェスティバルを運営・準備をするにあたり、「はちのじ」には5つのチームに分かれて活動している。</p> <p>①企画 フェスティバルの企画をしていく。環境問題、八尾のまちの魅力に特化した、八尾だからできる企画を、環境活動をしている地域の皆さんとともに企画をつくりあげる。</p> <p>②渉外 フェスティバルの協賛を八尾の企業にお願いをする。ただ、協賛を求めるのではなく、フェスティバルでの企業のアピールも考える。</p> <p>③ライター はちのじ活動情報、フェスティバルの情報、八尾の情報をSNSなどで発信していく。八尾の魅力に実際に触れ、発信していき、多くの人に八尾に興味を持ってもらう。</p> <p>④デザイン フェスティバルのパンフレット・ポスターの制作を行う。八尾の特徴をとらえたモチーフで、オリジナリティを目指す。</p> <p>⑤マネジメント フェスティバルの物品や人員などの管理し、運営を支える。</p> <p>フェスティバルの運営、イベント当日、この両方で様々なつながりが生まれる場となっている。</p>	
これまでの活動実績	昨年2015年度のいきいき八尾環境フェスティバルの報告書をPDFで添付させていただきます。	

	時 期	内 容
年間活動計画 (または活動結果)	1月～4月	2016年度の活動の準備 いきいき八尾環境フェスティバルの運営 2015年度から2016年度への引継ぎ 新メンバーの募集 代表・副代表決め 団体理念の考案 他団体との交流・イベントの参加 2015年度協賛企業へのお礼訪問
	5月～10月中旬	いきいき八尾環境フェスティバル準備 運営準備 渉外活動 企画内容考案 パンフレット・ポスター作製 など
	10月23日	いきいき八尾環境フェスティバル
	11月～12月	2016年度のフェスティバルの反省 報告書作成
	年間	週一回の学生でのミーティング 月一回の八尾市アニメイテッド八尾八尾の会員を交えた実行委員会

#### プロジェクトに参加している学生のリスト

会田架 浅井果穂（大阪樟蔭女子大学） 足立哲 粟野広大 大内涼加 大城琴絵 小副川楓 生田華葉 岩本崇志 上山華凜 九谷田生太郎（経済学部） 久保遥菜 熊谷優香（大阪教育大学） 坂倉珠里 鈴木貴彦 高田彩子 谷口亮大 土居和真 中屋敷萌香 成澤広加 東森啓 松田莉奈 丸岡梧朗 安田守一郎 矢野裕子 山下比呂

以上、括弧記載のない学生は、近畿大学総合社会学部に所属する。

#### 活動の成果

##### ・ 渉外の活動にて

新規企業さんに企業に電話する時、フェスティバルの存在をすでに知っている企業が増えた。  
→大人の方たちとのつながりや企業間でのつながりを積極的に取り込んで活動してきた成果が見えた。

##### ・ 近大の学部内ではちのじの団体の存在を、知っている人が増えた。

→大学内での広報を地道に続けた成果が見えた。  
→はちのじを通して、八尾を知ってもらえる機会が増えたといえる。

#### 研究事業に対する地域からの評価

行き来八尾環境フェスティバルに関して昨年のアンケート評価を添付させていただきます。

また、地域の方の声として、以下のような感想をいただきました。

##### 八尾市外に住む方

一日のフェスティバルを通して、各活動の取り組みや、八尾がどのような街なのかを楽しく知ることができた。楽しかったので、是非来年も参加したい。

→以上の感想から、八尾に住んでいない方にも、実家里と八尾の魅力が伝わっていた結果このような感想をいただけたのではないかと考える。

## 「いきいき八尾環境フェスティバル2015」実施報告書

### 日時

【第1部】平成27年10月25日（日）午前10時30分から午後4時まで  
【第2部】平成27年11月 8日（日）午前10時から午後4時まで

### 会場

【第1部】西武八尾店（〒581-8680 八尾市光町二丁目60）  
アリオ八尾（〒581-0803 八尾市光町二丁目3）  
【第2部】大阪経済法科大学花岡キャンパス  
（〒581-8511 八尾市楽音寺六丁目10）

### 参加者数

【第1部】約19,600名  
（西武八尾店 約9,900名、アリオ八尾 約9,700名）  
【第2部】約500名

### 協賛

協賛金 40社、合計 73万円  
物品協賛 3社、合計 約14万2500円

### フェスティバル第1部の様子

西武  
八尾店  
8階



▲▼式典の様子



▼ゼロスショー



#### ■式典

午前10時20分の式典からフェスティバルスタート。式典では、八尾市長をはじめ、八尾市議会議長、大阪経済法科大学学長からご挨拶をいただきました。

#### ■地球戦士ゼロス

その後、ステージでは「地球戦士ゼロス」のショーが実施されました。ショーが終わると八尾のゆるキャラたちもステージに登場し、みんなで記念撮影。写真の通り多くの子もたちがステージ上へ。ショーを通して多くの親子に環境のメッセージを伝えることができました。

#### ▼ゼロス&ゆるキャラと記念撮影





▼いきいき音楽会



■でっかく描こう！ぬりかべぬりえ

今年のぬりえは、八尾を知ってもらうことがテーマ。八尾の特産物やゆるキャラをふんだんに描き、その絵を多くの子どもたちが色塗り。完成した作品は、とてもカラフルでかわいらしい巨大な”ぬりかべ”に仕上がりました。完成した絵は2部でも展示を実施しました。

■体験型ワークショップ

グラウンドワーク八尾の紙すき体験や、ニッポンバラタナゴ高安研究会のドビ流しの模擬体験、例年人気のネイチャークラフト、学生企画のエコキャンドル作りなど、どのブースも参加者が途絶えない人気ぶりでした。

▼ドビ流し模擬体験



▼ようかいラリー



■いきいき音楽会

いきいき音楽会では、講念仏踊りから始まり、山本高校和太鼓部の力強い演奏や、ギター部や軽音部によるポピュラーミュージックの演奏、吹奏楽部の方々による演奏が披露されました。

▼ぬりかべぬりえ



▼ネイチャークラフト



▼エコキャンドルづくり



■ラリーでウォッチ！この街のようかいたち

去年の大人気企画が進化して復活しました。学生ボランティアが八尾の特産物の妖怪にふんして西武八尾店のいくつかのフロアをまわり、参加者の子どもたちが妖怪を探して、環境や八尾に関するクイズに答えていくラリー。今年はスタンプの台紙のデザインも八尾の地図にするなど、こだわってつくりました。

■企業出展や行政、施設の出展

八尾市に本社を構えるメロディアンや、大阪ガスのタッチパネルクイズ、花王のエコバック作り、大人気のパントリー西武八尾店のガラガラ抽選会など、企業ブースは大人気でした。他にも、盲導犬講習の実施が行われたり、アクトランドYAOやハッピーアースデイ大阪などの展示をたくさんの方が観に来てくださいました。

▼西武八尾店様 盲導犬講習



▼パントリー西武八尾店様 ガラガラ抽選会



▼花王カスタマーマーケティング様  
エコバック作り



西武  
八尾店  
屋上

▼西武八尾店屋上の様子



■食べたい、知りたい、やお屋台！

毎年お馴染みとなったパッカーくん焼きの販売や、マイ食器持参で安く食べられる焼きそば、リユースびん入り飲料を販売。今年初出店となった八尾のカフェや飲食店のブースでは、地産地消にこだわり、地元の食材を使用した商品を販売いただきました。

また、今年初の試みであるリユース食器の貸し出しは、環境活動を体験してもらう良い機会になりました。

▼ビンドゥ カレーナンの販売



▼リユース食器の貸し出し



### ■紙芝居

環境絵本「海と空の約束」の著者西谷寛さんにお越しいただき、巨大紙芝居を使って子どもたちに読み聞かせを実施していただきました。読み聞かせ後には、子どもたちとの対話を通して更に深く環境問題について考える機会を提供していただきました。

### ▼紙芝居



### ▼みんなで河内音頭を踊る様子



### ■みんなで踊ろう河内音頭

去年に続き今年も河内連による河内音頭がステージで披露されました。そして後半は参加者もステージと一緒に河内音頭を踊りました。

### ▼テーマソング



### ■テーマソング

今年初の試み。フェスティバルの最後に、学生が作詞作曲をしたテーマソングを披露。八尾市やフェスティバルの要素がたくさん詰まった歌詞になっています。

### ▼八尾の木ラリー



### ■つくろう！八尾の木ラリー

いきいき八尾環境フェスティバルの会場全体が対象になっているラリーです。木が完成すると、豪華な景品がガチャガチャでランダムに当たります。多くの方に参加していただきました。

### ▼集合写真



### ■協賛企業団体名の掲示について

ご協賛いただきました皆様の貴社名・貴団体名を簡単な各社の紹介文章と共に西武八尾店8階西武ホールの入口に掲示させていただきました。

また、ステージバックパネル及び総合受付前にもお名前のみ掲示させていただきました。ご協賛いただき誠にありがとうございました。

フェスティバル第2部の様子

▼開会式・ご挨拶の様子



■いきいき八尾環境フェス第2部

開催当日はあいにくの雨に見舞われましたが、開会式には八尾市長、大阪経済法科大学学長よりご挨拶いただき、無事いきいき八尾環境フェスティバル第2部が開催されました。

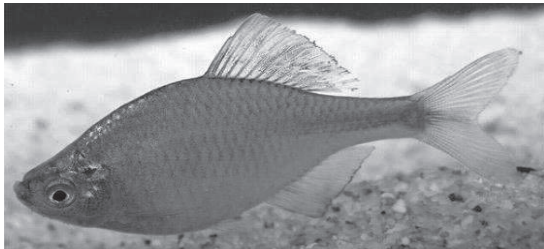
第2部は大阪経済法科大学花岡キャンパスにおいて開催され、悪天候にも関わらず延べ500名もの方々に来場して頂き、八尾の自然に直接ふれあっていただけでした。

▼どび流しの様子

■どび流し

第2部ではニッポンバラタナゴとその生態系を保全する活動である「どび流し」が行われています。「どび流し」とは池の浄化を行う伝統的な活動であり、「ニッポンバラタナゴを守る伝統的なため池浄化法“どび流し”の継承」として日本ユネスコ協会連盟主催の未来遺産にも登録された伝統文化です。今年度も多くの人が見守る中バラタナゴの繁殖、生態系の保全が確認されました。

▼ニッポンバラタナゴ



▼どび流しの様子



■ネイチャークラフト

第1部でも大人気のネイチャークラフト。第2部では、実際に山に入り、里山保全活動の一環として間伐などを行い、その間伐材などを材料にクラフトを製作します。子どもたちには、竹でつくるカエルなどが大人気でした。

▼ネイチャークラフトの様子



▼糸紡ぎ体験の様子



▼藍染め体験の様子



▼ポスター発表会の様子



### ■藻谷浩介氏 講演会

第2部では自然と触れ合うだけではなく、大学と言う土地柄を生かした、講演会も実施しています。今年度は「里山資本主義」の著者として有名な藻谷浩介氏を講師に招き、「里山資本主義と高安地域」というテーマにてお話いただきました。会場は満席で、地域の方々も多く参加いただき、意味深い講演会となりました。

### ■河内木綿

河内木綿は、江戸時代から明治時代にかけて織物や普段着として多くの人に愛用されていた八尾の伝統文化です。近年、その文化を復元・継承しようと多くの方が活動しており、第2部においては、河内木綿藍染め保存会の方々や大阪経済法科大学BLP・河内木綿プロジェクトの方々により河内木綿にまつわる商品の販売や糸紡ぎ体験、藍染体験などを実施いただきました。

▼河内木綿を用いた商品の販売会の様子



### ■ポスター発表会

八尾市において環境活動に携わっているNPOや学生、市民の方々による活動・研究発表会が行われました。幅広い興味を持った学生や社会人の方々など、多くの人に参加していただき、今年度初の試みながら、とても活気のある発表会となりました。

▼講演会の様子



## 「いきいき八尾環境フェスティバル2015第1部」 アンケート結果

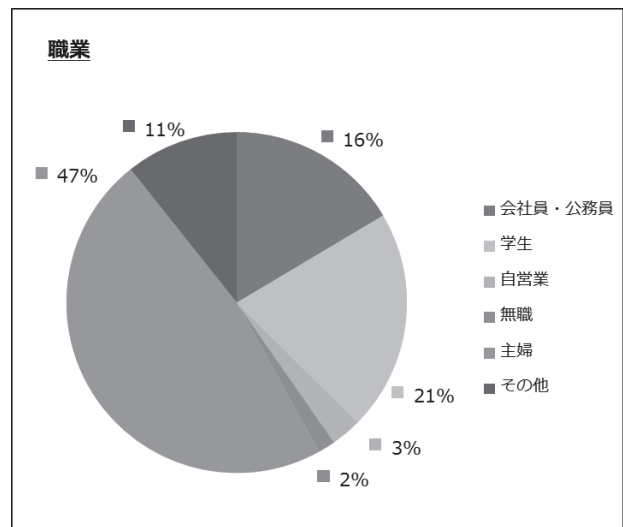
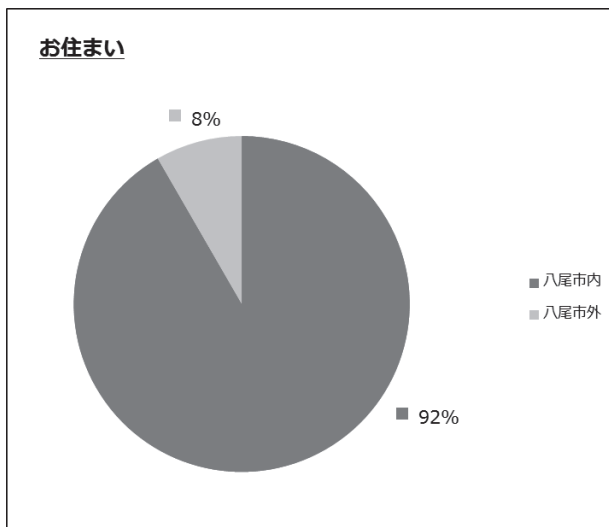
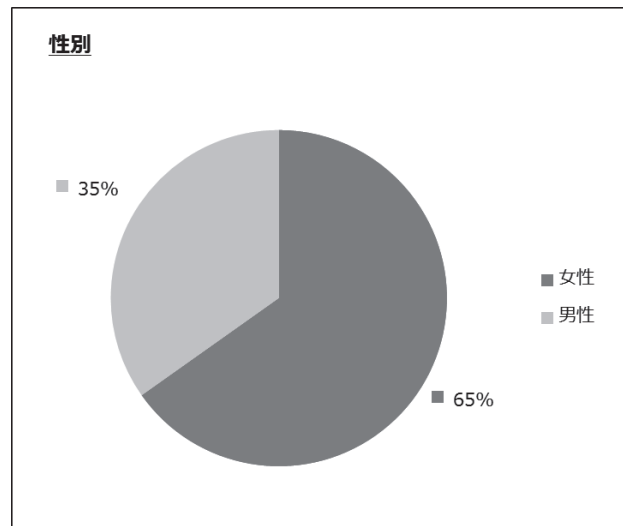
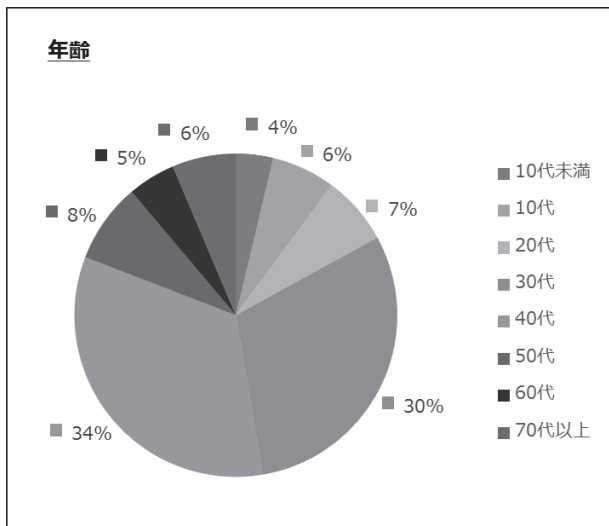
回収数

195枚 (634人)

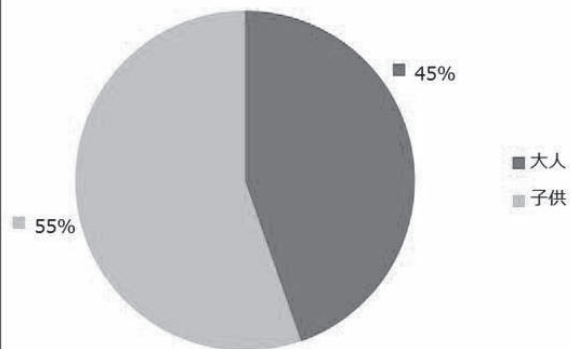
調査対象

ようかいラリー『ラリーでウォッチ!』、全体ラリー、ワクワクアリオ探検クイズの実施場で来場者に配布し、任意の形で記入していただいた。

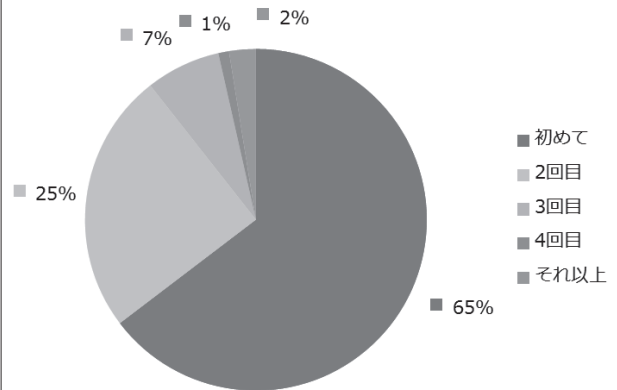
### アンケート結果



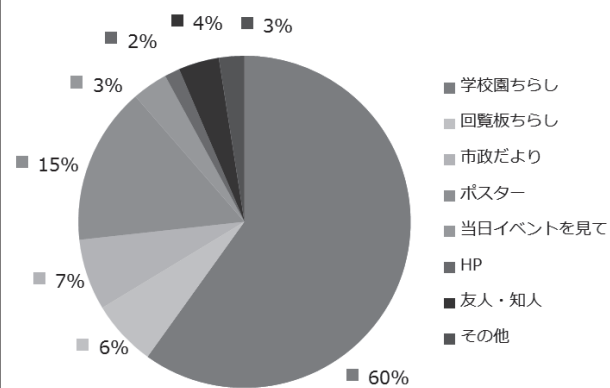
大人と子どもの割合



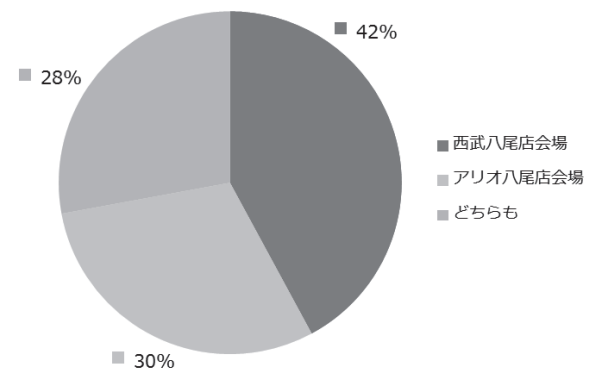
フェスへの参加回数



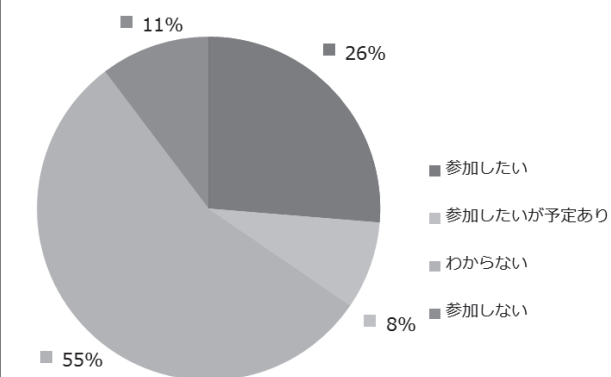
フェスを知ったきっかけ



フェス各会場への参加状況



フェス第2部への参加



## ■感想等

### ●プラスのご意見

#### 【全体】

- ・子供たち楽しんでいました。
- ・また開催してほしい。
- ・お天気が恵まれて最高だった。
- ・親子でたのしめるイベントだった。
- ・八尾市で作られている物がよくわかった。
- ・参加者が多く楽しかった。
- ・子どもがたのしめるイベントで全部たのしかった。
- ・環境に興味を持った。
- ・いろんな店を見て回れてよかった。

#### 【ようかい】

- ・ようかいさん達が頑張っていた。
- ・ようかいラリーが楽しくて子供が喜んでいました。
- ・子供たちがとても喜んで取り組めた。

#### 【ゼロス&ゆるキャラ】

- ・ゼロス（子供が喜んでいました。）
- ・ゼロスの人気がすごい。

#### 【その他】

- ・エコバック（花王）の製作が楽しかった。
- ・リサイクルの大切さを勉強できた。ありがとうございました。
- ・子供「ぬりえたのしかったです」。輪投げなどのゲームがあれば楽しいですね。
- ・生き物（八尾にメダカがいるなんて初めて知った！）
- ・歯ブラシが日本一の生産量とは知らなかった。
- ・特別ガラガラ抽選会（ペットボトルの蓋が役に立って良かった。）
- ・たばこクイズ（付箋がかわいかった。）
- ・景品はあまりいらぬかも。内容で勝負できます。
- ・クイズ（子供が楽しんでいました。）

### ●ご指摘やご不満など

#### 【全体】

- ・とても興味深いものばかりで人気がありすぎてなかなか順番がまわってこなさそうだったので、イベントホールの催物をもっとゆったりしたスペースが良いと思った。
- ・ごちゃごちゃしていて周りづらい。運営の仕方に疑問を感じる。
- ・駅やデパートの入り口にもっと大きな看板を置いたほうがいい。
- ・抽選が終了していて残念だったので、長くしてほしい。
- ・もっとたくさん景品を用意してほしい。

#### 【ようかいラリー】

- ・2階にようかいがいなかった。2・3階にいる人みんなで探したけどいなかった。

#### 【屋上飲食】

- ・屋台が途中売り切れだった。
- ・昼過ぎに焼きそばのところへ行きましたがすでに売り切れでした。残念。
- ・もう少し食べ物を増やしてほしい。

#### 【アリオ】

- ・アリオでのスタンプラリーでドーナツがもらえなかったため、（景品が無くなった時点で）用紙を配布中止にしてほしかった。
- ・射的が物足りない。



学生団体

# はちのじ

～1つのイベントから、地域連携を考える～


## 学生団体「はちのじ」って!?




八尾市

八尾のイベントの「企画・参加・発信」を通じて、

## 学生団体「はちのじ」って!?




継続的な  
人とのつながり

地域への愛着

八尾の人たちと継続的につながっていくこと、  
地域への愛着が深まっていくことを目指す地域活性団体。

## 学生団体「はちのじ」がすること



企画・参加・発信  
↓  
つながり・愛着を深める

**「場」**をつくる

## 学生団体「はちのじ」の由来

八尾市

八尾市→ハ→はち



地域のつながり、  
この活動が継続していく。

## テーマ：地域連携

はちのじは **八尾** を拠点に、  
**八尾**に関わる様々な人達と  
連携し、活動している。




「はちのじ」の地域連携活動の源となるイベント、



お手元のパンフレットをご覧ください。

## 八尾フェスって!?

● 概要 ●

- ・時期： 毎年10月の下旬
- ・場所： 西武八尾店  
アリオ八尾  
大阪経済法科大学
- ・主催：  環境アニメイテッドやお

● 目的 ●

地域の環境や文化の大切さ  
「伝える」  
八尾市の未来を担う子ども達

八尾の環境や文化を  
大切に守る意識  
↓  
市民に定着



★盛りだくさんの魅力的な企画

- ・体験型のコーナー
- ・自然と触れ合う
- ・見て楽しむ

まなぶ つくる みる

八尾の文化・歴史・自然環境  
+  
環境問題  
↓  
楽しく学ぶことができる祭

はちのじの八尾と地域連携ポイント

企画  
参加  
発信

① 企画する！準備する！  
② 知る！学ぶ！体験する！  
③ 発信する！

八尾フェス

企画する！準備する！

地域の大人×学生で企画・運営！

学生  
市民  
行政

全体でのミーティング  
+  
チームに分かれたミーティング

大人と学生がばらばらに活動…ではなく！  
1つのチームとなり、企画・運営  
→地域と学生が一つのモノを作り上げる

企画する！準備する！

学生中心 渉外活動！

【つながりの形成】  
・企業訪問  
・協賛依頼

【つながりの活用】  
・企業展示作成  
・ご協賛の活用

【つながりの継続】  
・交流会の企画

地域×企業  
企業×企業

知る！学ぶ！体験する！

高安山自然再生定期活動

八尾にある高安山で毎月行われている自然再生を促す活動

このキノコは食べれますか？

自然・歴史を学びながら大人の方と一緒に作業！

どのキノコも食べれますよ！1回は（笑）

知る！学ぶ！体験する！

歴史ウォーク

メンバーの多くが  
八尾ピギナー

八尾のまちを五感を通して  
八尾のフロの生のお話を聞こう

八尾の魅力を自分の言葉で発信できるように！  
めざせ！八尾マスター

久宝寺内町・八尾寺内町めぐり

知る！学ぶ！体験する！

わくわくまつり

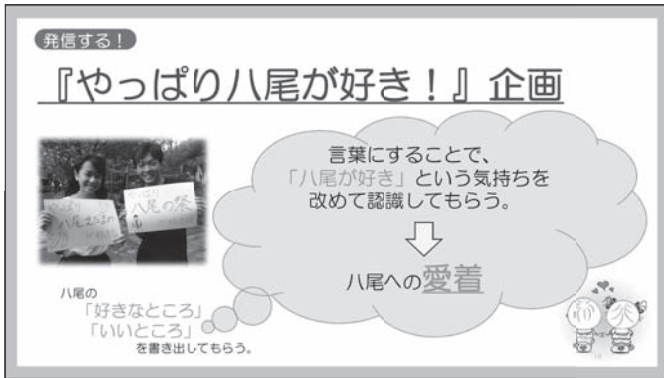
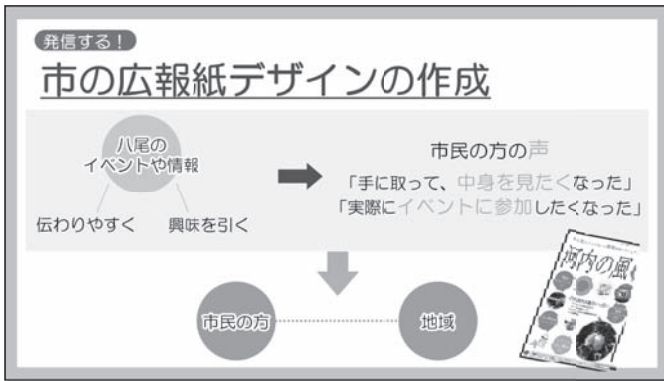
主催一健康子育て支援団体 thanks to child

はちのじらしい関わり方ってなに？

忙しいママたちのお手伝いをしたい！

①Facebookの設立  
これぞ若者の力！活動しているのに広報しなきゃ意味がない！！

②ポスター・プログラムの作成  
新聞の折り込みチラシで地域に事前配布！



発表⑤

テーマ名	泉州 RUSH プロジェクト & 熊取町連携—地域プロモーションバスツアー事業—	
連 携 先	泉南郡熊取町	
本事業に関する 問い合わせ	担当者：橋本佳恵	TEL：072-453-8222 メール：
活動の概要	<p>大阪観光大学泉州 RUSH プロジェクトは、2008年より、学生視点での地域魅力の発見と発信、また、観光交流を通じた地域振興活動に取り組んでいる。</p> <p>2011年度からは大学が立地する泉南郡熊取町と連携し、大学と町との協働事業の一環として、地域交流イベントや着地型ツアーを企画・実施している。</p> <p>2016年度前期における主な活動は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊取町への移住促進をめざす着地型ツアー「親子の夏休み in くまとり2016」の企画・実施</li> <li>・町内交流イベント「大人の社会見学」の企画・実施</li> <li>・学生と地域住民がともに地域について学ぶ「泉州観光学講座」の運営補助</li> <li>・その他</li> </ul> <p>今年度後期においては、農業祭やイルミネーションイベントなど地域で開催される事業に参加予定で、農業祭にぎわい創造会議委員、イルミネーションナイト実行委員として町の会議にも参加している。</p>	
これまでの 活動実績	<p>活動概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着地型ツアー「味わい泉州—熊取旬の旅」企画・実施（2011～2015）</li> <li>・着地型ツアー「親子の夏休み in くまとり」企画・実施（2016）</li> <li>・地域交流イベント「五感で楽しもう」企画・実施（2012～2014）</li> <li>・地域交流イベント「大人の社会見学」企画・実施（2015～）</li> <li>・「泉州観光学講座」運営補助（2009～）</li> <li>・熊取ふれあい農業祭協力（2012～）</li> <li>・くまとりイルミネーションナイト運営協力（2014～）</li> <li>・活動発表（大阪観光大学大学祭にて）（2011～）</li> <li>・泉州プロモーション実行委員会バス部会「泉州満喫バスツアー」協力（2009～2010）</li> <li>・地場産品を使ったレシピ開発</li> <li>・地元酒蔵の日本酒ラベル</li> <li>・講演活動・生涯教育協力</li> <li>・地域でのボランティア活動 など</li> </ul>	

	時 期	内 容
年間活動計画 (または活動結果)	2016年度 4月～7月	正課として開講されている「地域連携・泉州観光学講座」の運営補助。 期間中の土曜に2回実施されたフィールドワークでは、企画と運営支援にあたる。
	6月	地域住民を対象とする交流イベント「大人の社会見学」を実施した。
	7月	地域外に向けた着地型ツアー「親子の夏休みinくまとり」を実施した。従来は地域魅力発信を主目的として実施してきた(2011～2015)が、今年度は、ファミリー世帯の移住促進を主たる目的として、企画・集客を図り、実施した。
	10月	本学大学祭において、活動発表
	12月初旬	第5回熊取ふれあい農業祭参加(野菜収穫体験ツアー補助、大学ブース出展等)(農業祭にぎわい創造会議委員)
	12月下旬	第3回くまとりイルミネーションナイト(イルミネーション作品出展)(実行委員会委員)
	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産品を使ったスイーツのレシピ開発・調理実習(全国学校調理師連合会と連携)</li> <li>・地域の環境保全に向けたボランティア活動 など</li> </ul>

#### プロジェクトに参加している学生のリスト

有馬 知佳  
仁科 優  
柳澤 詠美  
ポー ピュイン ピューチャー  
ミン タンダー ウー  
ジョン ミン ツー  
八木 大貴  
澤 誠人  
西岡 敬馬  
沼田 康介  
白井 将  
根岸 新一郎

#### 活動の成果

自分達自身が過ごしている地域について知ることができた。地域の皆さんとかかわることで、世界が広がった。

また、各イベントではアンケートを実施しているが、活動については概ね好意的に評価していただいていると思う。

#### 研究事業に対する地域からの評価

協働の町担当者からは、様々なアドバイスや支援をいただいている。協働事業実施にあたっては、前年度に企画提案とプレゼンテーション審査を受けて採択に至るが、2011年度から継続実施できていることから一定の評価をいただいていると考えている。

## 泉州RUSHプロジェクト&熊取町 連携 — 地域プロモーションバスツアー事業 —

大阪観光大学 “泉州  RUSH”プロジェクト  
代表 柳澤 詠実

大阪観光大学

➡ 「泉州が知られていない?!」  
「地域の魅力を発見し発信していこう!」



## “泉州 RUSH”プロジェクト 発足

- \* 大学の立地する泉州地域を元気に!
- \* “RUSH”の言葉通り、勢いよく目的に向かっていこう!
- \* 2008年、橋本ゼミ学生有志が立ち上げ、ゼミ生が継続

大阪観光大学

## ➡ “学生と地域住民がともに学ぶ”

地域連携講座 2009~

- 産官学オムニバス講義
- フィールドワーク
- グループワーク



大阪観光大学


## ➡ 泉州プロモーションバスツアー 協賛

2010~2011

泉州プロモーション実行委員会  
(泉州9市4町・関西国際空港)

泉州広域プロモーション  
と関空の利用促進を  
目指す




大阪観光大学

## 【泉州プロモーションバスツアー】

RUSHプロジェクトのかかわり

- コース提案
- 広報チラシデザイン提案
- 添乗業務補助



大阪観光大学

## ➡ 大学と行政との連携・協働によるまちづくり


2011~

- 熊取町では  
「熊取町協働憲章」策定(2010)  
「協働事業」制度(2011)
- 協働事業とは  
住民などと行政、または、住民同士が連携・協力し、それぞれの特性を発揮しながら町づくりに取り組むこと

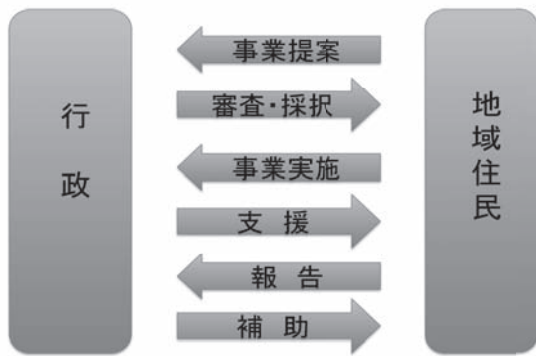
泉州地域で観光を学ぶ学生として、「観光交流を通じた  
地域振興」を提案(住民提案補助事業)



採択され、2011年度の協働事業としてスタート!

大阪観光大学

## 【協働事業】



大阪観光大学



## 提案事業

観光交流を通じた地域振興

大阪市内  
北摂

泉州



大阪観光大学



2016年度は、

## 町の転入促進施策と連動

### 【協働】

- 泉州RUSHプロジェクト
  - ・親子連れ・ファミリー向け企画
  - ・地域の魅力をよりよく伝える内容・案内
- 町
  - ・転入促進の側面からの情報発信



大阪観光大学

## 【プロモーションバスツアーの概要】

目的 : 町の転入促進施策と連動、地域魅力発信  
 ターゲット : 地域外(主として都市部)の子育て世代

タイトル : 親子の夏休み in くまどり

実施日 : 2016年7月23日(土)

募集人数 : 20名

- ※ 熊取町シティプロモーション推進課による支援(同行および各所)
- ※ ツアー申し込み窓口として旅行会社が加わる

大阪観光大学

## 【キーワード】

- \* 水なす 畑見学 & 収穫体験 ←水なす農家
- \* 水なす浅漬け 体験 ←婦人会
- \* 熊取コロッケ ←熊取ブランド展開中!
- \* ランチ 地場野菜のBBQ ← 参加者・学生・町交流
- \* 永楽ゆめの森公園 大阪府最大のすべり台
- \* 藍染め体験 ←わたっ子クラブ

大阪観光大学

## 【行程】

- 水なす畑見学 & 収穫体験
- 収穫した水なすで浅漬けづくり
- 泉州野菜BBQ & "熊取コロッケ"試食
- 永楽ゆめの森公園
- 藍染め体験



大阪観光大学



【広報】



読売新聞 2016.7.8.



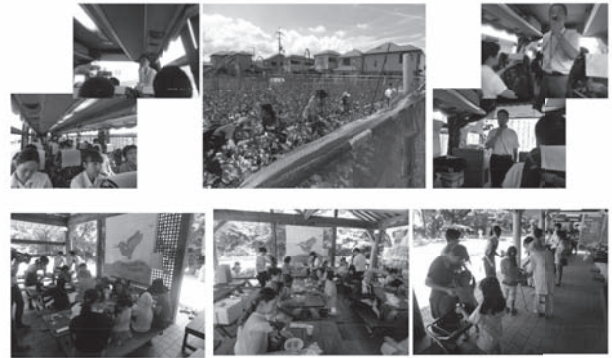
産経新聞 2016.7.13.



「ばど」2016.7.8.

大阪観光大学

ツアーのようす その1



大阪観光大学

ツアーのようす その2



大阪観光大学



観光経済新聞 2016.8.6.

※ 関西テレビの同行取材がありました(2018.8.1放送)。

大阪観光大学



協働事業2016

■参加者アンケート結果 (参加者:大人15人、子供5人)

【全般についての自由記述から】

- ・1歳半、3歳半の子供連れで心配でしたが、皆さん子供にとっても優しくあたたかく接して下さり感謝です。
- ・子育てしやすいような環境の整っている町だと感じた。
- ・大阪での知名度をUPしてほしい。正直、大阪市内から近いのにはびっくりした。
- ・お世話下さった皆さんのあたたかい気持ちがありました。
- ・心のこもったおもてなしをしていただき楽しかったです。
- ・よい企画と親切な方々とのふれあいがよかった。
- ・学生との協働プログラムをこれからも続けてほしい。

※体験・行程・全般の内容など想定以上に満足いただけました。食や施設に加え、学生や町の方々との交流が高評価の要因と考えられる。十分とは言えないが、地域の魅力の発信ができた。

大阪観光大学



2017協働事業に向けて -次年度に向けた課題-

▽子供への対応

参加者の性別・年齢により柔軟な対応が求められる。夏期の実施であれば、暑さへの対応や休憩のタイミングなども含め、さまざまなケースを想定した準備が必要である。

▽広報・集客

今回は、新聞・フリーペーパー掲載、チラシやポスター配布により広報を行った。集客予想が難しかったこともあり参加者をファミリーに限定できなかった。広報の仕方について検討が必要である。ママ友ネットワークや他の広報媒体を取り入れたい。

▽プロジェクトと町の役割分担

協働事業の強みである大学と行政の役割分担を明確にして、テーマに沿うような準備をより早い時期から開始する必要がある。

大阪観光大学

## 泉州RUSHプロジェクトのその他の活動

### ▽地域交流イベント「大人の社会見学」



### ▽環境保全ボランティア活動



大阪観光大学

### ▽レシピ開発



### ▽地域イベントへの協力・参加

- ・「農業祭」(毎年12月) ブース出店、収穫体験ツアーガイド
- ・「イルミネーションナイト」(毎年12月) イルミネーション作品出品

### ▽町委員会への参加

- ・食のブランド会議、地域ブランド会議、農業祭学生実行委員、イルミネーション学生実行委員 等

大阪観光大学

## ありがとうございました

わたしたちの活動をささえて下さる皆様に感謝いたします！

柳澤 詠美 (代表)  
有馬 知佳  
仁科 優  
ミン タンダー ウー  
ポーピュイン ビューチョウ  
澤 誠人  
西岡 敬馬  
ジョンミン ツウ  
根岸 新一郎  
沼田 圭介  
白井 将  
八木 大樹



大阪観光大学

発表⑥

テーマ名	大阪環状線改造プロジェクト「桃谷アートミュージアム」	
連携先	西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部 企画課 大阪環状線改造プロジェクト	
本事業に関する 問い合わせ	大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学 教育研究支援センター 担当者：吉井俊介	TEL：06-6829-2630 メール：kyoshi@osaka-seikei.ac.jp
活動の概要	<p>大阪成蹊大学芸術学部ビジュアルデザインコースでは、企業の課題を解決する「課題解決型デザイン学修」を2年後期に授業として配置しています。今回、西日本旅客鉄道株式会社（略：JR 西日本）『大阪環状線改造プロジェクト』が進める桃谷駅改良のコンセプトと、本学園の建学の理念が「桃李成蹊」であることをきっかけに、産学連携事業を行ってきました。</p> <p>学生が8グループに分かれ、桃谷駅の工事用仮囲いを活用した「桃谷の魅力を伝える」ポスターを企画しました。オリエンテーションから、駅周辺や商店街などでの調査・取材、2回のプレゼンテーションを経て、最終的に3グループの案が採用となりました。ポスター企画という課題でしたが、「桃谷の魅力を伝える」というテーマから、単発のポスターデザインでなく、テーマ性のある連続企画や、WEB、SNSを活用した展開などの提案までを行い、JR 西日本の担当の方々から高い評価をいただきました。採用された3グループのポスターの展示は、桃谷駅工事用仮囲いアート企画「桃谷アートミュージアム」として、桃の節句である平成28年3月3日（木）より行われました。</p>	
これまでの活動実績	<p>発表学生のこれまでの活動実績 (芸術学部情報デザイン学科ビジュアルデザインコース)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○東淀川区：東淀川アートレンタル・プロジェクト 平成26年6月～平成27年9月 【産学連携プロジェクト】</li> <li>○大阪土産「わいわいカルタ」【産学連携プロジェクト】</li> <li>○「広報いけだ」の取材、デザイン</li> <li>○大阪市東淀川区地域連携PBL「大阪市東淀川区の社会的課題を考える」</li> <li>○企業連携PBL（タビオ株式会社、株式会社せのや、株式会社カワキタ）</li> <li>○企業連携PBL（西日本旅客鉄道株式会社、独立法人UR 都市機構）</li> </ul>	

	時 期	内 容
年間活動計画 (または活動結果)	平成27年 10月6日	オリエンテーション
	10月13日	現地調査
	11月11日	中間プレゼンテーション
	12月1日	最終プレゼンテーション
	12月15日	優秀3作品決定
	平成28年 3月3日	桃谷駅 仮囲い「桃谷アートミュージアム」開催 感謝状授与式および桃の花のサンプリング

プロジェクトに参加している学生のリスト

安部 美里	倉園ぴあの	松原 広実
生田 晋大	小鷹はるな	水藤 美菜
上田 一希	小谷奈都未	宮本 彩花
王 昊麟	坂口 茜	宮本 音々
大前 美遙	忍田 夏菜	村井 昌子
岡田 梨里	新宅 由真	山崎菜々実
小田 樹那	須川 優希	結城 美悠
木村 光希	長滝 純平	由良 茜
久保 文乃	成木 想	吉井 莉恵
	張場沙有梨	李 安琪
	平出友理菜	寺下風治郎

活動の成果

初日の3月3日(木)には、オープニングイベントが開催され、JR西日本より学生たちに感謝状と記念品が授与されました。授与式の終了後には、学生たちは桃谷駅前商店街キャラクター「ももたん」とともに、「桃の節句」にちなみ、桃谷駅ご利用のお客様に、桃谷駅シンボルフラワーである桃の花(切り枝)を配布しました。

駅をご利用のお客様は、ポスターの掲出により、いつもとは違った駅構内をゆっくりと眺め、学生たちの制作したポスターを興味深く観覧していました。企業との連携により実社会に根ざした実のある学びが獲得できました。

研究事業に対する地域からの評価

桃谷商店街「大阪環状線改造プロジェクト」

JR西日本と大阪成蹊大学芸術学部の学生とのコラボ企画「桃谷アートミュージアム」桃谷の魅力を伝えるポスターを工事用仮囲いに展示する企画。そのポスターは最大9メートル地域で働く人や桃谷駅の商店街の人も出演しています。ポスターお披露目式典を3月3日桃の節句駅前商店街のゆるキャラ「ももたん」4歳誕生記念とし商店街スタッフも一緒にみんなで”桃の花”を300本お配りしました。

駅・大学・まちがつながる素敵な一日となりました。ありがとうございました！

JR  
JR西日本



みんなの◎に

大阪環状線改造プロジェクト

**Momodani Art Museum**

大阪成蹊大学芸術学部ビジュアルデザインコース

大阪成蹊大学  
芸術学部



みんなの◎に

大阪環状線改造プロジェクト

大阪環状線を  
「乗ってみたい」  
「行ってみたい」  
線区に改造するプロジェクト。

大阪成蹊大学  
芸術学部

主な活動

駅美装改良




商業施設開発



新型車両



地域との連携



大阪成蹊大学  
芸術学部

課題

桃谷駅の改装に伴い  
工事中仮囲いに掲示するポスター制作




大阪成蹊大学  
芸術学部

制作過程

2015年9月	10月	12月	2016年1月	3月
オリエンテーション	現地調査	プレゼン	校正入稿	桃谷アートミュージアム オープニングセレモニー開催
JR 課題発表	11月10日 中間プレゼン	12月1日 最終プレゼン	2月2日 リーガルチェック	3月3日 オープニングセレモニー

大阪成蹊大学  
芸術学部

現地調査

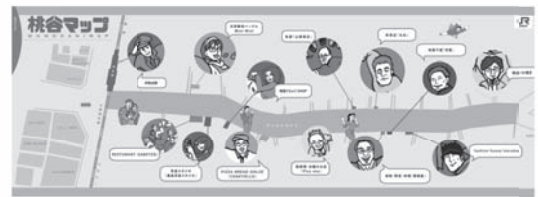
- ・象徴的なものがない
- ・商店街・学校・病院  
住宅地しかない
- ・華やかさに欠ける
- ・コリアタウンへの  
通過場所ではない
- ・一部、治安が悪い

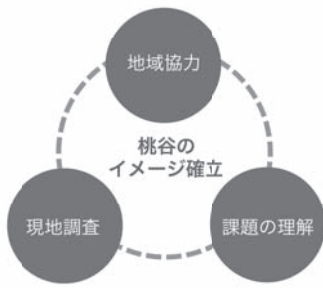


# 桃谷♡美人

がんばるあなたがすき！

## 桃谷図鑑







テーマ名	地域のコミュニティー拠点における大学生の地域参加	
連携先	東大阪市のG地域（市域をA-Gの7地域に区分）	
本事業に関する問い合わせ	担当者：近江堂リージョンセンター運営委員会	TEL：06-6730-0840 メール：cpdre306@hct.zaq.ne.jp
活動の概要	<p>東大阪市内に7ヶ所ある地域のコミュニティー拠点である「近江堂リージョンセンター」で、リージョンセンターを利用する活動団体や小中学生との交流事業をおこなっている。</p> <p>地域と大学の交流のための場として、リージョンセンターの企画運営をしている企画運営委員と大学生の話し合いの場「いどばた会議」を設けている。</p> <p>「いどばた会議」では、自分たちの活動している地域が「こんな“まち”になってほしい」や「あんな“まち”にしてみたい」など、いろいろな立場の主体者からの自由な意見交換をしながら、リージョンセンターで開催する年中行事の内容を話し合ったり、地域の特徴を再発見し、課題を解決するためのフィールドワークをおこなったりしている。</p> <p>次項の【年間行事計画】にある07月「はすの広場七夕まつり」や10月「はすの広場フェスタ」では、両行事ともに、大学のサークル・部活団体の学生に地域の子どもを対象にしたブース出展を依頼し、「はすの広場七夕まつり」では、昔遊びや手作り自然工作、縁日コーナーを、「はすの広場フェスタ」では、出店部門では屋台で食品販売をおこない、出演部門ではサークル・部活団体の学生が舞台発表をおこなっている。</p> <p>なお、東大阪市内には4つの大学・短期大学（近畿大学・大阪商業大学・大阪樟蔭女子大学・東大阪短期大学）があり、本市と各大学・短期大学は行政と大学がともに発展することを目的として「東大阪市大学連絡協議会」を平成8年に設立し、連携をすすめてきた経緯がある。そのため、当リージョンセンターが地域と大学の交流のための場になるよう継続的に地域活動を推奨していきたい。</p> <p>*リージョンセンターとは、地域の特性を生かした個性豊かなまちづくりを推進するため、市と市民が協働しておこなう事業等を企画・立案・運営している施設である。（HPより）以下の写真が「近江堂リージョンセンター」である。</p>	
		

\* 「いどばた会議」は、開催日時：毎月第三月曜日午後18時～、開催場所：近江堂  
リージョンセンター（〒577-0817東大阪市近江堂3-12-15）で実施している。以下  
の写真が「いどばた会議」のようすである。



#### プロジェクトに参加している学生

近畿大学総合社会学部 岡田 智博  
近畿大学理工学部 松本 達志  
近畿大学建築学部建築研究会メンバー  
近畿大学サークル・部活動団体、OB・OGの方々

これまでの  
活動実績

次項の【年間行事計画】以外に、地域と大学の交流を目的とした取り組みとしては、これまでに下記にある①・②の取り組みをさせていただいた。

①大学の一般開放日に近隣住民（近畿大学周辺の）を対象に大学構内を案内させていただいた。「近畿大学キャンパスツアー」と題して、講義棟・研究棟をはじめ、図書館・体育館・記念会館などの建物を見学した後、食堂で軽食しながら、その日の大学案内の感想と大学や大学生との思い出話を話していただいた。



②大学周辺の教育・医療施設へ出向き、大学のサークル・部活団体の見世物をゲスト発表という名目で披露させていただいた。お互いの主張（開催場所・日時や発表内容）の調整役をわたしたち研究室の学生がおこない、当日の発表をサークル・部活団体に所属する学生がおこなった。



時 期	内 容
【年間行事計画（28年度）】の場合	
教室・行事名	開催日時
将棋教室	第1・3土曜日
語学教室（初級/中級）	毎週火曜日
料理教室	4・7・11月
工作教室	8月
パソコン教室	隔月日曜日
こころとからだの養生訓講座	11月
新春講演会	1月
スプリングコンサート	3月27日
歩こう会	5月
登ろう会	5・8・12月
七夕まつり	7月3日
フェスタ（文化祭）	10月8・9日
<p>*これらの年間行事は、すべて「近江堂リージョンセンター」で開催されており、あらかじめ運営会議で協議し、出演者および出店者への依頼をした上、開催内容をチラシ/ポスター・HP・広報紙で地区の住民や市民に広報している。各教室・行事の参加者には、アンケート記載に協力していただき 今後の改善のために役立てている。以下のURLは、リージョンセンターの参考サイトである。</p> <p>参考サイト：<a href="http://www.shimin-plaza.com/plaza/oumido/">http://www.shimin-plaza.com/plaza/oumido/</a>  <a href="http://hasunohiroba.jimdo.com/">http://hasunohiroba.jimdo.com/</a>  <a href="http://genki365.net/gnkh17/pub/sheet.php?id=541">http://genki365.net/gnkh17/pub/sheet.php?id=541</a></p>	

年間活動計画  
(または活動結果)

## 活動の成果

上記の「活動の概要」「これまでの活動実績」に記述しているように、リージョンセンターで開催されている行事に参加させていただき、①大学の一般開放日に近隣住民を対象に大学構内を案内させていただき、②大学周辺の教育・医療施設で学生発表会をさせていただいた。

大学生をはじめ若年層は、市民が利用できる公共スペースにおいて疎遠されがちだったが、①では、ここ最近の大学の取り組みを知ってもらうことで、従来とは違った新しいイメージを持ってもらうことができ、大学や大学生の活動に付加価値を持ってもらえるようになり、②では、学生の活動と発表の機会をつくることができたことで、発表をみたい地域住民と発表をしたい学生を結びつけることができ、学生と地域住民との世代間の交流を図ることができた。

ただし、リージョンセンターで開催されている各教室・行事は年配者を対象とした内容が多く、センターの利用は、年配者の活動団体の利用率がもっとも多いのが現状である。これと同様に大学構内でも、さまざまなイベント活動をおこなっているが大学関係者のみの参加であることが多い。リージョンセンターが大学にとってもう一つの学習・研究拠点になり、大学が地域にとってもう一つの交流拠点になるような取り組みをおこなっていききたい。

今後も学生団体の活動や発表できる機会を増やしていけるように、また、地域住民が参加できる大学での取り組みを増やしていけるように、継続して周辺地域で地域活動をさせていただきたい。

## 研究事業に対する地域からの評価

最近話題になっている大学の学生たちが、地域の行事に参加してくれてとても感謝しています。学生たちの若い力のおかげ様で、この地域に新しい活気が出てきました。

リージョンセンターを利用する東大阪市在住・在勤・在学の方が、企画運営に関わりはじめたことで大学・大学生の取り組みに関心をもって下さる方々が多くなってきました。

地域に住んでいる住民は高齢者が多くなっており、自治会への加入は少なくなり、町内会役員は減ってきています。そのため自治会や学校の行事内容が物足りなくなっています。一部では住まなくなった古い長屋をマンションや集合住宅に建て替え、新しい居住者が入ってきているが、その者は自治会活動をあまりしてくれません。近畿大学生以外の若者も住んでいるが、自治活動をしてくれる様子はありません。昔のような活気は私たちだけでは出せないことが分かってきました。大学のキャンパスで大規模な工事をおこない始めてから、周辺の住宅も建て替えのスピードが速まっているように思います。

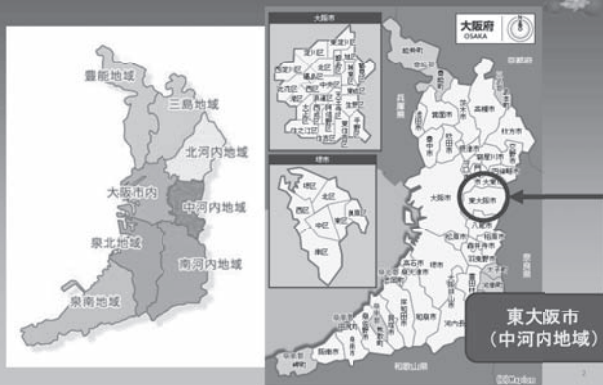
ほかの市町村でも事例があるように、大学生たちによる地域参加を社会経験としてだけで終わらすだけでなく、社会事業として継続できればもっと地域が元気になっていくのではないかと思います。一時的な行事ならば参加していただけるが、日常的な地域活動に学生の支援を求めるには、まだまだ課題があるようです。入学前・卒業後にも何らかの形で地域に関わってもらえるような仕組みはないのでしょうか。

# 『地域のコミュニティー拠点における 大学生の地域参加』

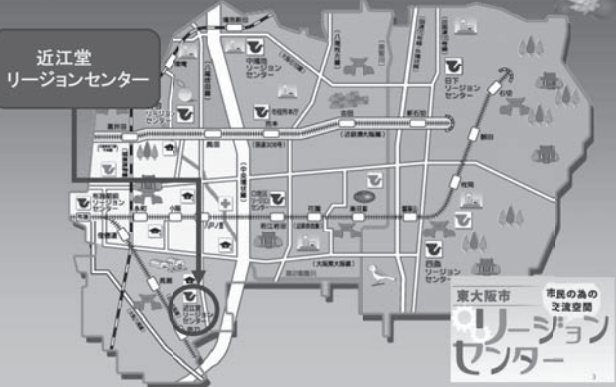


近畿大学  
総合社会学部 都市学コース 文化・社会学専攻  
岡田 智博

# わたしたちの活動している場所



# 東大阪市にある地区センター



# はすの広場 (東大阪市近江堂リージョンセンター)



# はすの広場 (東大阪市近江堂リージョンセンター)

◇センターの概要◇  
東大阪市 7つの地域 (A~G)にある交流拠点の1つ

- ・1階: 行政サービスセンター、多目的ホール、休憩コーナー、図書コーナー、はすの庭
- ・2階: 会議室C、会議室D、文化ホール、談話コーナー
- ・3階: 会議室A、会議室B、美術工芸室、料理室、茶室、和室

# 「いどばた会議 in G地域」





### 【年間行事計画(28年度)】

教室・行事名	開催日時
将棋教室	第1・3土曜日
語学教室(初級/中級)	毎週火曜日
料理教室	4・7・11月
工作教室	8月
パソコン教室	隔月日曜日
こころとからの養生別講座	11月
新春講演会	1月
スプリングコンサート	3月27日
歩こう会	5月
登ろう会	5・8・12月
七夕まつり	7月3日
フェスタ(文化祭)	10月8・9日







## これからの取り組み

- ▶新規の企画事業・新規の運営者
- ▶近隣の地域や大学との連携
- ▶地域の資源を生かした取り組み



## さあ、近江堂リージョンセンターへ



## 発表⑧

テーマ名	河内木綿プロジェクト	
連携先	(株)アイズ石川、NPO 法人河内木綿藍染保存会、NPO 法人ニッポンバラタナゴ高安研究会	
本事業に関する問い合わせ	担当者：松浦萌	TEL：080-3888-6980 メール：14b0137@s.keiho-u.ac.jp
活動の概要	<p>大学におけるビジネスリーダー育成のためのプログラムである BLP (Business Leader Program) の活動として取り組まれている河内木綿プロジェクトは、地元八尾市の伝統文化である河内木綿文化を新しい発想で普及させ、世界に発信して八尾市の活性化に貢献していく事を目標に活動している。</p> <p>八尾市の伝統産業である河内木綿を復活させるために、河内木綿プロジェクトでは、河内木綿の生産、加工、販売に取り組み河内木綿の6次産業化を目指している。生産では、大学の敷地内にある畑で河内木綿を有機栽培し、河内木綿の生産と共に自然環境保護をNPO 法人ニッポンバラタナゴ高安研究会と合同で行っている。加工では、大学で収穫した河内木綿を全て手作業で行うための糸紡ぎ→機織り→藍染をNPO 法人河内木綿藍染保存会に協力をしてもらい、製品化に向けて取り組んでいる。また、本学で開催している学園祭や八尾シンポジウム（中小企業家同友会八尾支部と大阪経済法科大学が主催で、年に一回行われる企業経営に関するシンポジウム）に出展することで地域の人を対象とした取組や、オープンキャンパスで高校生を対象に活動紹介等を行い、河内木綿の認知度向上のための活動をしている。販売では、河内木綿や本学オリジナル河内木綿藍染紋様を使用した商品を開発し、これまでにない新しい伝統品を目指して販売を行っている。現状では、試験的な販売しか行っていないが、将来的には、八尾市の特産品として販売出来るように取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>これらの活動を学生が主体となって、地域の方や企業と連携して取り組んでいくことでより大きな成果を生み出すことが出来ると考えている。</p>	
これまでの活動実績	<p>2014年度に、プロジェクトを発足し、河内木綿を現代のニーズに合わせた形にするために、河内木綿藍染紋様の考案をし、本学オリジナル紋様を作成した。2015年度からは活動を本格化し、他の伝統文化継承に取り組む団体への取材や、プレゼン大会への出場、河内木綿の有機栽培やSNSを活用した広告宣伝活動など幅広い活動を行ってきた。2016年度は広告宣伝活動や製品の開発、プロジェクト体制の強化に力を入れ、昨年度の活動内容に加えて、河内木綿プロジェクトオリジナル製品の開発や、国際交流会の実施、オープンキャンパスでの高校生を対象としたプロジェクト活動紹介の実施、ビジネスモデルの考案などを行っている。</p>	

	時 期	内 容
年間活動計画 (または活動結果)	2016年	
	2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NHK 総合テレビ「学校発見バラエティーあほやねん！すきやねん！」出演</li> <li>・八尾シンポジウム出展</li> </ul>
	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八尾市内の小学校にて伝統文化体験実施</li> <li>・Happy Earth Day Osaka 参加</li> </ul>
	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売用製品開発開始</li> <li>・読売ライフ掲載</li> </ul>
	5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河内木綿有機栽培開始</li> </ul>
	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JICA 海外研究員との交流プログラムにて文化紹介</li> </ul>
	7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西陣織会館、京都絞り工芸館取材</li> <li>・はたおり工房取材</li> <li>・2016全国コットンフェスティバル in 阪南取材</li> </ul>
	8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢つむぎ会取材</li> <li>・藍染実施</li> <li>・キエフ国立大学学生に対する河内木綿文化体験</li> <li>・本学のオープンキャンパスにて活動紹介実施</li> </ul>
	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトオリジナル販売用製品完成</li> <li>・いきいき八尾環境フェスティバル藍染体験実施</li> </ul>
	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経法祭（学園祭）にて製品販売及び藍染体験実施</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八尾シンポジウム出展</li> </ul>	

#### プロジェクトに参加している学生

経済学部経営学科 3年前田修平  
経済学部経営学科 3年松浦萌  
経済学部経営学科 3年松永晃治  
経済学部経営学科 2年笠井樹希  
経済学部経営学科 2年柴田佳祐  
経済学部経営学科 2年牧内信  
経済学部経営学科 2年山口竜樹

#### 活動の成果

2015年12月 経済学部研究発表第一位受賞  
2016年 2月 プロジェクトオリジナル作品完成  
3月 プロジェクトオリジナル広報用製品完成  
4月 プロジェクト第3期スタート  
10月 プロジェクトオリジナル販売用製品完成予定

#### 研究事業に対する地域からの評価

八尾市長が本学の学園祭に来られ、河内木綿製品を購入してくださるなど、地域の方々からの応援のお声がけをいただくことも増えた。また、活動を行っていくにつれ、国際交流会の実施や高校生への文化紹介活動、製品の開発などを依頼される機会が増え、本プロジェクトの活動が認知されつつあると考える。

**facebook**

<https://www.facebook.com/keiho.kawachimomen/>

大阪経済法科大学  
BLP特別演習 呉ゼミ 河内木綿プロジェクト

# 河内木綿プロジェクト

河内木綿プロジェクトとは  
地元八尾市の伝統文化であり産業であった河内木綿を現代のニーズに合わせて、世界に発信することを通じて地域に貢献していくことを目的とし、活動を行っています。

河内木綿とは  
河内地方、現在の大阪府八尾市の周辺で栽培されている木綿のことです。丈夫で長持ちすることが特徴で、使えば使うほどに味がでます。

### 環境

本学の花園キャンパスで河内木綿の有機栽培を行っています。本学教養部加納教授のご指導のもと、耕作放棄地を耕して畑にするところから始め、様々な工程を経て、9月から綿の収穫に取りかかり始めました。

### 社会

河内木綿に関する取り組みを行っている企業や団体に取材を行い、地域の方々と交流を深めながら、情報収集に努めています。また、八尾市内の小学校や本学の学園祭で伝統文化体験を実施し、伝統文化の継承に取り組んでいます。

### 経済

現代のニーズに合った製品を開発するため、市場調査やアンケート分析を行っています。また、販路拡大のためにFacebookページで河内木綿や河内木綿プロジェクトに関する情報を発信しています。

河内木綿を広めるために  
様々なイベントやプレゼン大会に参加しています。

2015.12.3 経済学部研究発表大会

2015.7.4 Enactus国内大会

時期	内容
2月	NHK総合テレビ「学校発見!バリエーションあふれる「すきやねん」」出演 八尾シンポジウム出演
3月	八尾市内の小学校にて伝統文化体験実施 Happy Earth Day Osaka参加
4月	販売用製品開発開始 販売ライブ開催
5月	河内木綿有機栽培開始
6月	JICA海外研究員との交流プログラムにて文化紹介 西陣織会館、京都絞り工芸館取材 はたおろし工房取材 2016全国コットンフェスティバル@阪南取材 夢つむぎ会取材
8月	藍染実施 キエフ国立大学学生に対する河内木綿文化体験実施 本学のオープンキャンパスにて活動紹介実施
10月	プロジェクトオリジナル販売用製品完成 いきいき八尾環境フェスティバル@藍染体験実施
11月	経法協(学園祭)にて製品販売及び藍染体験実施
2月	八尾シンポジウム出演

# 八尾市の活性化に 本気で取り組む プロジェクト

大阪経済法科大学 BLP特別演習  
河内木綿プロジェクト

1

# 成長

2

## BLP (Business Leader Program)

社会で通用するビジネス知識、実践力を  
身に着けるプログラム

3



率先する力

考える力

挑戦する力

協働する力

表現する力

6

## 河内木綿プロジェクトとは？

地元八尾市の  
伝統文化であり産業であった  
河内木綿を現在のニーズに合わせて  
世界に発信することを通じて  
地域に貢献していく

## 河内木綿



河内地方で栽培されている木綿

## 河内木綿



河内地方で栽培されている木綿

生産 加工 販売

生産

加工

販売

生産 加工 販売

有機栽培

①

②

④

③



生産 加工 販売

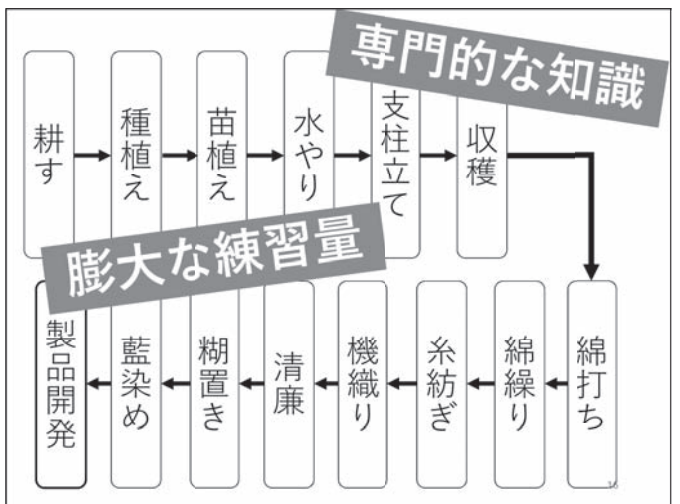
## Facebookの活用

河内木綿プロジェクト  
@kani\_cotton

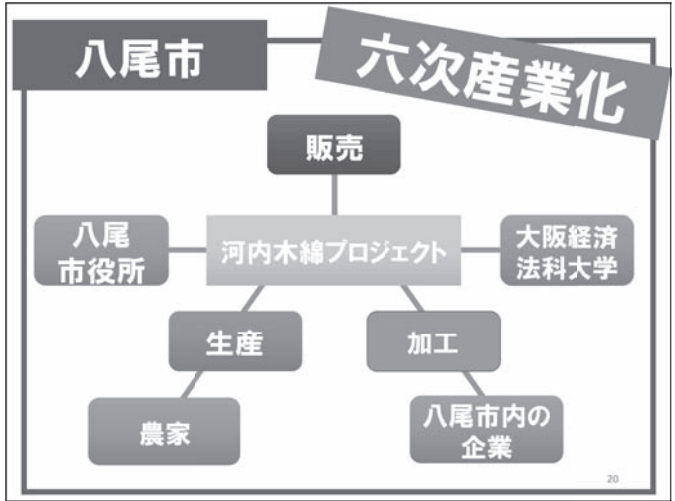
インターネット販売の土台

製品の宣伝

15







八尾市の活性化

21

ご清聴ありがとうございました。

22

## 発表⑨

テーマ名	大阪国際大学×京阪百貨店 開業30周年記念コラボ商品開発	
連携先	株式会社 京阪百貨店 MD 統括 ファッション・リビング統括部	
本事業に関する 問い合わせ	担当者：細見 好男	TEL：06-6994-1313 メール：
活動の概要	<p>京阪百貨店開業30周年（平成27年10月）を迎えるにあたり、例年開業日に合わせて開催されている「秋の大感謝祭」において、大阪国際大学の学生と京阪百貨店でファッション商品のコラボ企画が提案された。</p> <p>その提案に対し、担当教員主催の自主ゼミとして平成27年度新入生の中で有志の学生を募り、学生6人（当時）が集まった。商品企画というものに一切触れたことがなかった私たちは、担当教員と京阪百貨店守口店社員営業政策部営業企画グループ細見好男さんと私たちのアイデアを形にしていく企画をスタートさせた。</p> <p>毎週木曜日、大学の授業終了後にミーティングを重ね、コラボ商品は「帽子」に決定した。そこからは、教員と社員さんからの指導の下、商品開発の手順を学んだ。まず、学生とのコラボ商品ということを活かすために、メンバー全員分の考える作りたい帽子のアイデアを出し合った。しかし、そのアイデアは十代の私たちが被りたいと思うもので、実際に京阪百貨店で買い物をする世代の40代～80代が欲しいと思うものではなかった。そこからは、ターゲットをしっかりとイメージし「私たちが思う、その人たちに被ってもらいたい帽子」を芯に置き、様々なアイデアを出していった。</p> <p>そして、私たちが出したアイデアをもとに、大学で学んだマーケティングの方法を活用したり、メンバー各自で母や祖母への聞き取り調査や帽子の生地選定など、学外での活動も行なっていった。ときには、私たちがイメージしたものと全く違うサンプルが上がってきたこともあり、人に考えを伝えることはとても難しいことなのだ実感させられたりもした。</p> <p>こうして、約6か月間に2種類の帽子を完成させることが出来た。完成した帽子は、秋の感謝祭で京阪百貨店守口店、樟葉モール店で発売され、利益を出すこともでき、この企画は成功を取めた。</p>	
これまでの 活動実績	<p>商品開発のミーティングを重ね、帽子の様々なアイデアを出した。そこでは、実際にターゲット層へ聞き取り調査を行い「こんな要望があるなんて」と新しいアイデアを得たり、理想の帽子を自分たちでイラストにして、細かい要望を加えてみたりした。また、その帽子を被ってどこへ出かけてほしいか「帽子の物語」を考えたりもした。そのアイデアの中からイメージを明確にし、2種類の帽子（女優帽、キャスケット）を作ることに決定した。女優帽は「お母さん世代に被ってほしい特別感あふれる帽子」キャスケットは「髪型が崩れないオシャレでカジュアルな帽子」になった。それを社員さんに託し、工場への注文行い、出来上がったサンプルの修正を繰り返した。帽子につけるコサージュの生地選定では、生地専門店まで出向き、細部までこだわった。こうして、帽子を完成させることが出来き、京阪沿線のチラシの記事に、この企画を掲載してもらえたりもした。</p>	

	時 期	内 容
年間活動計画 (または活動結果)	平成27年 4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品企画スタート 担当教員、社員さん、学生で毎週木曜日18時からミーティングを行う。</li> </ul>
	5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラフ案UP 様々なアイディアのもと、出来上がった二種類の帽子「女優帽」「キャスケット」のイメージを社員さんに提出し、工場へ注文。</li> </ul>
	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンプル1回目 「女優帽」のサンプルが出来上がる。「キャスケット」はデザインが複雑なため次回に。</li> <li>・修正サンプルUP 「女優帽」のサンプルの「つば」の長さ、飾りのリボンの太さ・カラーを本体の帽子に合うように修正。 付属のコサージュが理想とは違ったため、すべてを一から注文し直す。</li> </ul>
	7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンプル2回目 「女優帽」と「キャスケット」のサンプルが出来上がる。</li> <li>・修正サンプルUP 「女優帽」の本体は納得のいくものになっていたが、コサージュが華やかさに欠けたため、大きさの変更。 「キャスケット」は納得のいくものであったため完成。</li> <li>・サンプル3回目 「女優帽」のコサージュも完成。</li> <li>・発注 「女優帽」と「キャスケット」を発注。</li> </ul>
	8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回作の提案など 次回のコラボ商品ではどのようなものが作りたいか、アイデアを出し合う。</li> </ul>
	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・納品 「女優帽」48個。「キャスケット」24個が京阪百貨店守口店、樟葉モール店に納品される。</li> </ul>
	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発売 「女優帽」と「キャスケット」が店頭で販売される。</li> </ul>

#### プロジェクトに参加している学生のリスト（五十音順）

g15017 大串亮太  
g15023 王青葵  
g15047 杉村采香  
g15084 福森結菜

#### 活動の成果（現在進行中のものは、現時点のもので可）

京阪百貨店とのコラボ商品にて、2種類の帽子（女優帽、キャスケット）を企画し、利益を出すことに成功した。

また、この活動を通して自分自身も、グループで一つのモノをつくることの難しさを知った。メンバー全員に責任と必要性があり、一人でも欠けてしまえばそこを埋めるだけ、他のメンバーが動かなくてはいけないという事を身をもって実感したし、企業と関わるという事は「学生」であっても「社会人」を意識して、行動しなければならない面があり、大学1回生のうちから社会のルールに触れる貴重な経験となった。

そして、モノをつくる楽しさも知ることが出来た。自分たちのアイデアが実際のモノになっていく過程は世界に一つだけの特別な体験であった。企画がスタートしてから徐々にこだわりが生まれると、本気で良いモノをつくりたいと思え、熱意は何事にも必要なことなのだと学んだ。

商品販売時には、私たちの帽子を被ってもらえていることに大きな達成感を得ることが出来た。

#### 研究事業に対する地域からの評価

本事業は、京阪守口市駅前再開発完了30周年を迎え、同地域内に outlet している「京阪百貨店」から記念プロジェクト提案があり、始まった協働プロジェクトである。

地元企業とのコラボ企画として取組を開始し、本企画以外にも短期大学部学生グループによる「行楽弁当開発」プロジェクトと共に、本学での取り組みが進められた。

本取組については、大学の地域連携活動を担当する地域協働センターでは、周年記念プロジェクトであり、地元企業とのコラボによる地域貢献活動としての意義を認め、協働して活動に関わっている。これまで、オープンキャンパスや学内外で行われるイベント等で広く周知に努めており、企画開発した商品「キャペリンハット」「キャスケット」を本学学生が地元企業とコラボデザインしている事例の紹介を行っている。

オープンキャンパスや学内外のイベントでの紹介では、本学の活動を広くご理解いただいております、学生達の自主的な活動を評価してもらっている。

また、地元商工会議所でも、管内企業とのコラボ企画実現（地元の代表的企業とのコラボ）を歓迎されており、併せて本学の産学連携活動に対する期待を表明されている。

おしゃべりに交身して



左から京阪百貨店MDの細見さん、学生の大串さん、平松慶太郎さん、福盛結菜さん、杉村さん、王青榮(ちんいん)さん、講師の森友さん。「この帽子をかぶるだけで、ガラリとイメージチェンジができます」



守口店は2層シーズン雑貨売り場で販売中。数量限定で「女優帽」1万2960円(写真左・4色あり)と、首まですっぽり包み込むデザインが印象的なキャスケット9180円(同右)

大阪国際大学(守口市)の学生が京阪百貨店とコラボして、「ミセスにかぶってほしい女優帽・キャスケット」を開発。10月1日から京阪百貨店守口店・くずはモール店で販売が始まりました。

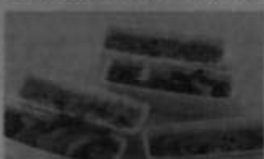
開発にかかわったのは、グローバルビジネス学部の、商品企画に興味を持つ1年生5人。入学直後の4月からの取り組みです。プロジェクトを統括した同学部講師の森友令子さんは、「京阪百貨店の利用客の年齢層、性別、売れ筋を調べ、ターゲットを30代〜60代のミセスに決定。まさに学生の『母親から祖母世代』と話します。

なぜ「女優帽」? 杉村采香さんは、「大ぶりな『女優帽』には小顔効果も(笑)。普段は帽子のおしゃれをしないお母さんにこそ、かぶってほしい」と話します。

開発の中で苦労したのはコサージュやリボン選び。「理想の生地を探すため、みんなで船場の生地屋さんを巡りました」と森友さん。18回ものミーティングを重ね、先月ようやく完成。「授業ではできない貴重な経験だった」と大串亮太さん。一人三脚で開発をサポートした京阪百貨店MD

担当の細見好男さんは「彼らの思いを実現できるよう、メーカーと交渉。普段ならなかなかこまではこだわられません。私にとっても新鮮な経験でした」と語ります。

目にもきれいなヘルシー弁当



同大短期大学部ライフデザイン総合学科栄養士コースでも、京阪百貨店・プラスメデイとコラボして「秋のすこやか選替わり弁当」(778円)を開発しました。「食物繊維、脂質カット、鉄・カルシウム」の3つをデー

マに、旬の旬のお弁当が完9以下など、験しない制や彩りを考になりまし

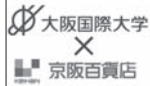
の浅井千佐生が関わっ品。売れ行き商品は関

せは、同百貨994)1

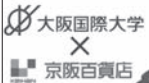


大阪国際大学 グローバルビジネス学部

1

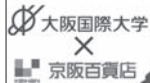


2



条件を  
満たす物

3



3



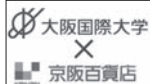
守口店

- ・食品関係に強い
- ・60代~80代が多い



若い世代の購買客を増やす

4



店舗近辺地域

5



大阪国際大学  
×  
京阪百貨店

## ターゲット

- ・40代～80代
- ・守口店周辺在住
- ・女性

7

大阪国際大学  
×  
京阪百貨店

## 女優帽

## キャスケット

8

大阪国際大学  
×  
京阪百貨店

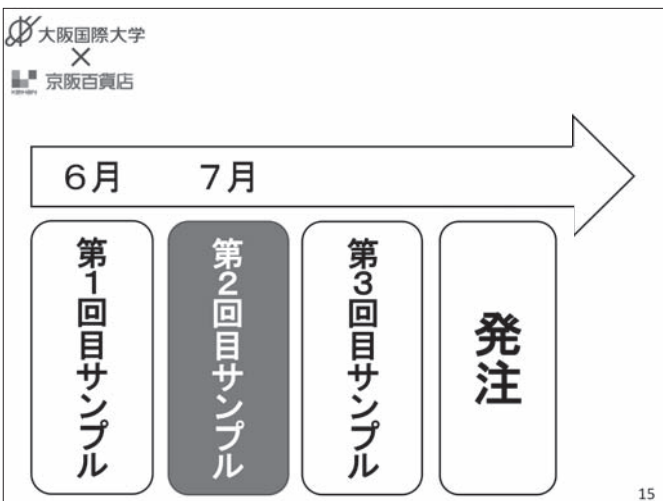
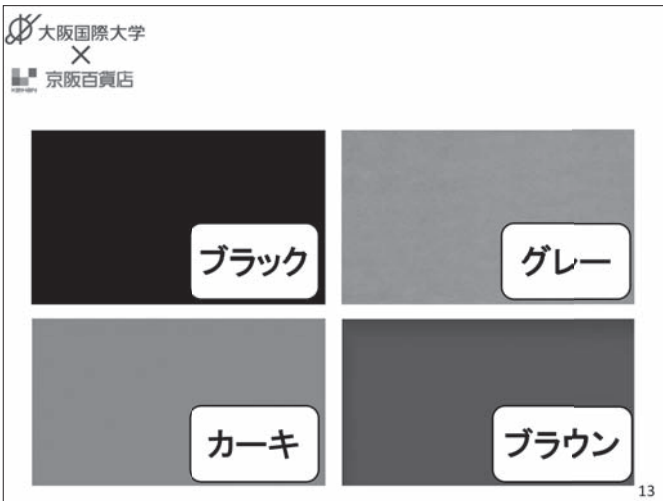
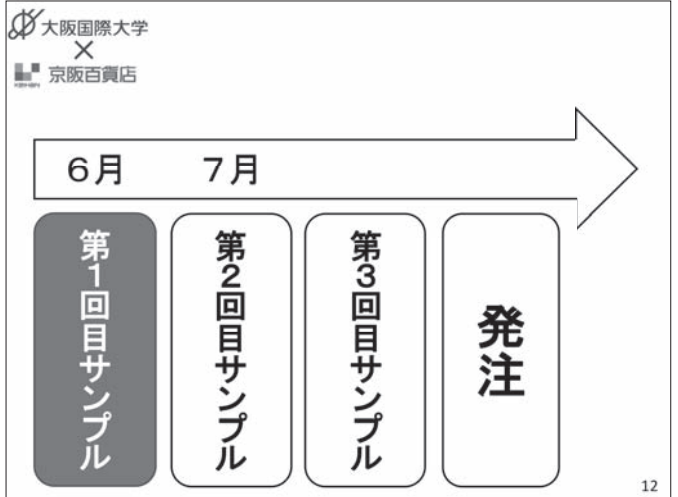
- ・帽子が型崩れしない
- ・普段使いしやすい色
- ・すっぴんを隠すため  
つばを広く

9

大阪国際大学  
×  
京阪百貨店

売れる帽子？

10





6月 7月

第1回目サンプル

第2回目サンプル

第3回目サンプル

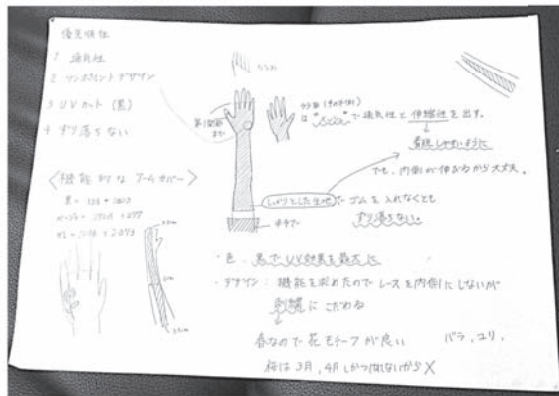
発注

17

発注



18



19

30の秋の大感謝祭 3

特別な日のおでかけもっとオシャレに  
楽しめるよう、シルエイトにこだわった  
女専用。

キャバリンハット  
(ベージュ・ブラック)  
12,960円 (税込送料別)  
■シーズン雑貨売場

指先が開いてスマホ  
操作もラクラク。  
それだけで指先長めで  
あったかい。

キャスケート  
(ベージュ・ブラック)  
9,180円 (税込送料別)  
■シーズン雑貨売場

ジャージ手袋  
4,320円 (税込送料別)  
■シーズン雑貨売場

20



21

掲載

キラリ学生力

大阪国際大学が京阪百貨店とコラボ  
私たちが作った帽子で  
おしゃれに変身して

「帽子は髪型が似るからイヤ」という  
お客様のお声から、髪型が似にくい  
デザインに仕上げました。

「帽子は髪型が似るからイヤ」という  
お客様のお声から、髪型が似にくい  
デザインに仕上げました。

「帽子は髪型が似るからイヤ」という  
お客様のお声から、髪型が似にくい  
デザインに仕上げました。

22

販売成績

女優帽 … 半数以上

キャスケット … 7割以上

学び





# 当日の風景



# 地域連携 学生フォーラム in 大阪 2016

どなたでも参加できます！

10/16 (日)

フォーラム 13:00-16:30

交流会 16:30-17:30

@大阪国際交流センター

大阪市天王寺区上本町 8-2-6

大学コンソーシアム大阪 会員大学の学生が取り組む地域の課題解決に関する研究活動(ゼミ等)について、発表交流会を開催します。

「地域連携活動」に取り組む学生の意識の高揚と活動の情報を会員大学や自治体関係者等と共有・発信する機会とし、地域連携の活発化を目指します。

参加無料  
事前申込制

定員 150 名



地下鉄谷町線「谷町九丁目」駅 5番出口 徒歩7分  
地下鉄谷町線「四天王寺夕陽ヶ丘」駅 1番出口 徒歩6分  
近鉄線「大阪上本町」駅 14番出口 徒歩5分

## 学生目線での「チイキとの関わり」、 知ってみませんか？

こんな活動してまーす！  
詳しくは裏面へ！



参加希望の方はメールで  
お申し込みください  
10月13日(木)  
締切

- ・メールアドレス → [chiren@consortium-osaka.gr.jp](mailto:chiren@consortium-osaka.gr.jp)
- ・件名には「学生フォーラム参加申込」と記載してください
- ・本文には次の内容を記載してください
  - ① 氏名(フリガナ含む)
  - ② 郵便番号 ③住所 ④メールアドレス
  - ⑤ 所属先・職名(学生の場合は大学名・学部・専攻・学年)

※申し込みの際にお送りいただきました個人情報は、本件に関するご連絡以外では使用しません。  
※3日以内(土日祝は除く)に大学コンソーシアム大阪から返信メールがない場合はお問合せください。

主催：特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

<http://www.consortium-osaka.gr.jp/>

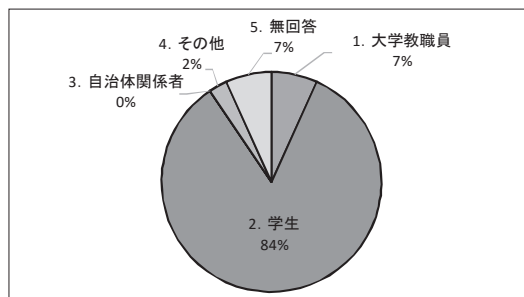
発表内容 ※発表は20分

13:10-13:30	泉佐野市の訪日外国人誘客促進のための取り組み 一犬鳴山地区及び犬鳴温泉のAR（オキ・コミュニティ・リアルティ）マーカーをいれたMAP作り— 大阪観光大学 観光学部 （泉佐野市・犬鳴山地区）	泉佐野の観光復興につなげるために真生印刷株式会社と泉佐野市役に協力・指導を受け地域マッププロジェクトが始動。関空の対岸にあり、大学がある泉佐野市は地域資源が多いにもかかわらず観光客数が伸びていないことから、泉佐野市の観光の課題と現状を把握し、観光推進の一助となるマップ作りを目指す。
13:30-13:50	関西大学と池田市との連携協定に基づいた 商店街活性化・にぎわい創出事業 関西大学・関西学院大学 有志学生 （池田市）	関西大学と関西学院大学の学生が関関(かんかん)COLORS(カラス)として池田市の活性化、池田市栄町商店街の活性化を目指している。現在次の3つの事業を行っている。 ①子ども預かり事業（毎週水曜日の夕方からの学童保育） ②空き店舗活用事業（平日の日中に地域のコミュニティスペースとしてリトミック、いっ福サロンなど様々な教室を開催） ③イベント事業（季節ごとのお祭りを主催、地域のイベントのスタッフとして参加）
13:50-14:10	体験学習法を基盤にした地域連携活動 KU cafe at 扇ヶ浜ビーチ 関西大学 人間健康学部 （和歌山県田辺市）	田辺市観光振興課との連携で7月15日から8月15日までの1カ月間、同市の扇ヶ浜海水浴場で海の家「KU cafe at 扇ヶ浜ビーチ」を運営。店舗のレイアウト、メニュー、仕入れ、売り上げの管理等、すべて学生が行い、期間中に3つの地域のお祭りにも参加。
14:10-14:30	地域がつながる場づくり 近畿大学 総合社会学部 （八尾市）	八尾市の自然環境、文化、歴史、教育、行政、産業など「八尾のまち」に関わる様々な人達をつなげ、イベントや場づくり、情報発信を行う事などを通じて、「八尾ってこんなところええなあ、すきやなあ、おもしろいなあ」という気持ちを八尾に関わる多くの人に訴えかけ、八尾への愛着、つながりをさらに深めることを目指し活動。
14:40-15:00	泉州 RUSH プロジェクト&熊取町連携 ～地域プロモーションバスツアー事業～ 大阪観光大学 観光学部 （泉南郡熊取町）	2008年より、学生視点での地域魅力の発見・発信、観光交流を通じた地域振興活動に取り組んでいる。2011年度からは、大学が立地する泉南郡熊取町と連携、協働事業の一環として地域交流イベントや着地型ツアーなどプロモーション活動を展開している。ここでは、転入促進を目的として2016年7月に実施したバスツアー「親子の夏休み in くまどり」について報告する。
15:00-15:20	大阪環状線改造プロジェクト 「桃谷アートミュージアム」 大阪成蹊大学 芸術学部 （大阪市天王寺区・JR西日本「桃谷駅」）	JR西日本『大阪環状線改造プロジェクト』が進める桃谷駅改良のコンセプトと、学園の建学の理念が「桃李成蹊」であることをきっかけに、産学連携事業を行ってきた。学生がグループに分かれ、桃谷駅の工事前飯田いを活用した「桃谷の魅力伝える」ポスターを企画した。
15:20-15:40	地域のコミュニティー拠点における 大学生の地域参加 近畿大学 大学院 総合文化研究科(文化・社会学) （東大阪市）	東大阪市内に7ヶ所ある地域のコミュニティー拠点である「近江堂リージョンセンター」で、リージョンセンターを利用する活動団体や小中学生との交流事業をおこなっている。地域と大学の交流のための場として、リージョンセンターの企画運営をしている企画運営委員と大学生の話し合いの場「いどばた会議」を設けている。そこでは、自分たちの活動している地域が「こんな“まち”になってほしい」や「あんな“まち”にしてみたい」など、いろいろな立場の主体者からの自由な意見交換もとに、リージョンセンターで開催する年中行事の内容を話し合ったり、地域の特徴・課題を解決するためのフィールドワークをおこなったりしている。
15:40-16:00	河内木綿プロジェクト 大阪経済法科大学 経済学部 （八尾市）	大学におけるビジネスリーダー育成のためのプログラムであるBLP(Business Leader Program)の活動として取り組まれている「河内木綿プロジェクト」は、地元八尾市の伝統文化である河内木綿文化を新しい発想で普及させ、世界に発信して八尾市の活性化に貢献していく事を目標に活動している。
16:00-16:20	大阪国際大学×京阪百貨店 開業30周年記念コラボ商品開発 大阪国際大学 グローバルビジネス学部 （守口市・京阪百貨店）	京阪百貨店開業30周年(平成27年10月)を迎えるにあたり、例年開業日に合わせて開催されている「秋の大感謝祭」において、大阪国際大学の学生と京阪百貨店でファッション商品(帽子)のコラボ企画を提案、販売。

# 地域連携 学生フォーラム in 大阪 2016 参加者アンケート 集計結果 (74回答)

## 1. 所属先について

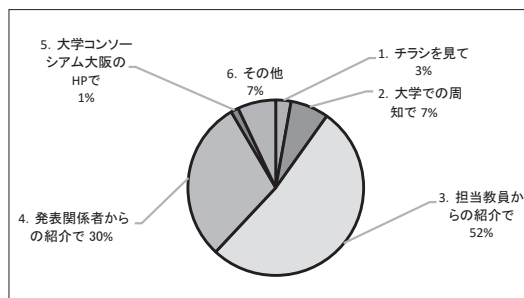
1. 大学教職員	5
2. 学生	62
3. 自治体関係者	0
4. その他	2
5. 無回答	5
合計	74



4. その他  
連携先企業より2名

## 2. このイベントを知ったきっかけ

1. チラシを見て	2
2. 大学での周知で	5
3. 担当教員からの紹介で	37
4. 発表関係者からの紹介で	21
5. 大学コンソーシアム大阪のHPで	1
6. その他	5
7. 無回答	3
合計	74



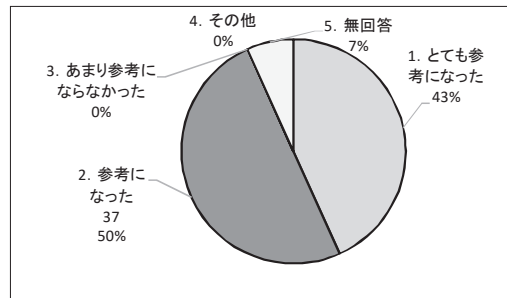
その他  
・ 昨年も参加したため ・ 二度目の参加  
・ 先輩に誘われて ・ 昨年からの引き続き

## 3. 特に関心をもった内容 (3つまで選択)

①泉佐野市の訪日外国人誘客促進のための取り組み	30
②関西大学と池田市との連携協定に基づいた商店街活性化・にぎわい創出事業	24
③体験学習法を基盤にした地域連携活動 KU cafe at 扇ヶ浜ビーチ	25
④地域がつながる場づくり	18
⑤泉州 RUSH プロジェクト&熊取町連携～地域プロモーションバスツアー事業～	21
⑥大阪環状線改造プロジェクト「桃谷アートミュージアム」	36
⑦地域のコミュニティー拠点における大学生の地域参加	1
⑧河内木綿プロジェクト	14
⑨大阪国際大学×京阪百貨店 開業30周年記念コラボ商品開発	16

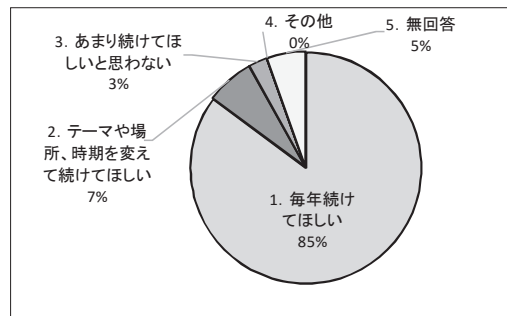
#### 4. 今後の研究や地域連携の取り組みの参考になったか

1. とても参考になった	32
2. 参考になった	37
3. あまり参考にならなかった	0
4. その他	0
5. 無回答	5
合計	74



#### 5. イベントの継続について

1. 毎年続けてほしい	63
2. テーマや場所、時期を変えて続けてほしい	5
3. あまり続けてほしいと思わない	2
4. その他	0
5. 無回答	4
合計	74



2. テーマや場所を変えて
・学生フォーラムなので、駅に近くわかりやすいところで開催してほしいです。
・1月や2月など、昨年の活動について説明できる時期。(新鮮なうちに)
・春休みにも色々なものを行っていると思ったから。
・もっと多くの大学がかかわるテーマがいい。工学など理系の人たちと産学連携についても知りたい。
・地域の連携先の人たちもいらっしゃって話を聞き、意見交換ができればよいです。

## フォーラムの感想や意見

### ○感想

地域にとってどんなことをしていくと活性化するかというヒントがたくさんあった。ニーズにこたえていくために、それぞれがとりくんでいることが知れてよかった。
他大学の様々な活動が知れてよかった。発表方法にも個性があり、楽しむことができた。
自分達がしてきた地域連携と場所は異なっているけれど、方法やアイデアなど、また参加する時に参考になるような事が聞けたので良かったです。
他の大学がどのような活動をしているかがわかり、毎回活動の規模の大きさや発表の完成度に驚かされるばかりなので、私たちももっと成長していこうという意欲がわきます。
他の方の地域連携を知ることができて良かったです。自分たちと似ている点、違う点があったので参考にしたいと思います。
数々の地域連携の方法や考え方を知ることができたよい機会でした。プレゼンテーションの場で発表する力も得ることができたこともよかったです。
他大学の取り組みについて知ることができ、たくさんの学びを得ることができ、刺激をもらうことができました。
いろいろな研究や地域連携の取り組みを学び、参考になりました。
色々な大学の研究を通して、勉強になりました。
自分たちの活動を発表するだけでなく、人の話、発表を聞いて参考になる部分がたくさんありました。
いろいろな大学の取り組みを知るいい機会になり、様々な気づきがあった。
学生のチームで協力することや、プレゼンの練習になったりと、社会へ出る前の良い取り組みになると思いました。内容をみて、過程で学生が学んできたことがよくわかるし、良い。
このイベントがあったことで、自分たちは調べたり、考えたりしたのでわかるのですが、発表するので相手にわかりやすく、また見やすく説明するのに皆で協力することができたので、良い思い出になりました。
色々な大学が違う研究をしておもしろかった。
他の大学がどのような取り組みを行っているのかを知ることができたので、今後自分たちにもこのような取り組みをしていきたいと思う！
色々な大学が様々なプロジェクトに取り組んでいると聞いて、とても驚きました。
勉強になりました。
学生が自分たちの活動を振り返る良い機会だと思う。
他大学の事業を知るとはあまりないので、同じようなことをやっているグループもあれば違ったグループもあって、いろんな考えがあって色々な刺激が受けれて良かったです。
全然違う形の地域連携があるのだと感じた。
自分たちの行う地域活性とは別の方向から地域を盛り上げる団体を見て、とても参考になった。
昨年に引き続き参加させていただき、ありがとうございました。様々な地域連携の形があっておもしろいです。
様々な大学の地域とかかわる活動がたくさんあって、とてもおもしろかった。今後の地域連携の参考にしていきたい。
様々な都市が大学と協力し、自分たちの町をどうにかしようという思いで動いていることが解って良かった。もっと他にも学生たちの活動はたくさんあると思うので知りたい。
自分（自分のゼミ）が行っていること以外、他の大学がどんな活動をしているかというのは今まで全く知らなかったのので、それを知る機会になってとてもよかった。また、大学のプレゼンということで、自分もこんなことができるようになりたいと思った。
自治体、企業と連携しているところが多く、自分たちとはまた異なる関わり方を知ることができた。
来年もどんなものがあるか楽しみ。
2年間参加させていただき、ありがとうございました。
昨年に引き続き参加させていただきましたが、昨年よりもパワーアップされていて、私たちも更に頑張らないうちという気持ちになりました。
様々な大学の発表を聴いて、工夫されているスライドや話し方を学ぶことができた。また、企画していることに関して、何をしなければいけないのかも知ることができた。
プレゼンの技術。活動で意識できていない部分に目を向けることができた。改めて自分の活動がどういうものなのか、考えるきっかけになったのが良かった。



発表内容だけでなく、伝わりやすい話し方、興味を引くプレゼン資料などについても考えることができ、とてもいい機会になった。
様々な観点から地域連携を行っている団体があることを知れてよかったです。

## ○意見等

もっと発表形態を工夫することで（聞いている側がもっと参加できるような形）、より良いイベントになるのではないかと思います。学外の方がどんな地域連携をしているのか知れて良かったです。
・他大学の取り組み発表を知ること、今後の自分達の取り組みに活かしていきたいと思った。
学生が主体で展開する。
・継続性のある企画と新規の企画をセッションとして分けるべきと思う。（5年目、10年目のプロジェクトとはじめてのプロジェクトの違いがあると思う。）
・コンテストではない形もよいが、審査形式で評価するのも良いのではないか。
やはり、バラつき、レベルの差はある。優勝、準優勝を設けて、やる気を向上してほしい。
大変参考になりました。行政との関わり方と行政へのPR。
普段、他大学との取り組みを知る機会はなかなかないため、大変貴重な場に参加できてよかったですと感じる。質疑応答も活発で、自分たちだけでは得られない視点をいただけたと感じ、非常に意義のある場であった。運営、司会、広報なども完全に学生の手でできればよりよいのではと感じる。
色々な大学が集まり、自分の企画を発表しあうことで、長所を自分に取り入れることで相乗効果が期待できるかと思う。
近畿だけでなく、遠方の大学の方々にも参加してほしい。
大阪府内だけでなく、他県の大学の意見も聞いてみたいです。
大阪だけでなく、関西の大学から話を聞きたい。
地域活動だけでなく、他の大学の人がどのような活動をしているのか発表の場を設けていただきたいのと、誰でも入場できるような環境を作してほしい。
時間の使い方を考えた方が良くなるのではと思う。
もっとこのような発表できる場をアピールすると、他の学校も参加でき、知らないことを知ることができるので、知ってもらいたいです。
更に多くの大学にアプローチして、もっと様々な大学の人の活動が知りたいなと思います。
参加した大学同士で新たな地域連携ができればよいと思う。
発表の機会により、自分たちの団体の再確認、また他団体のノウハウの発見
このフォーラムから新たなつながりが生まれるとすごく楽しいのではないかと思います。
各々の地域連携が広まり、大阪全体から近畿全体へそして日本が良い国になれば良いと思った。
地域活性化に向けた情報発信
他の大学の学生ともっと関わる機会がほしい。教育についてなど、同学部だけで考えるのは狭いと思うので、もっとオープンな会場がほしい。
今後も各大学のヨコのつながりを深められるイベントを企画していただきたいです。また、もっと広く学生が気軽に参加できる形であるとなお良いものになるのではないかと考えます。
もっと大学で声をかけていくべきだと思います。
大学生の主体性を育むよい活動だと思います。そうした活動の情報交流を実現できる場として継続的に実施してほしい。
来年はもっと多くの団体が集まること。

## ○大学コンソーシアム大阪への意見

大学コンソーシアム京都の活動レベルに追いつくための体制の充実。
---------------------------------

## ①泉佐野市の訪日外国人誘客促進のための取り組み

ARという考えはこれから電子端末が普及していくなか、よい効果があると思う。
犬鳴山のこと詳しく調べられてよかったです。ARがすごいアイデアだと思い、また今度行ってみようと思った。
ARという技術を使いながらも、ニーズに合わせた形にすることは素晴らしいと思いました。
ARが活躍してほしいため。
関空にもっとPRすると次につながると感じます。
ARを地図にうめこんでください。
近年、関西観光が大人気で、訪日外国人も多く、訪日外国人のために英語でマップを作ったり、また日本人のためにARで日本語も使った。それが素晴らしいと思う。
ARの技術が面白いと思います。今訪日外国人が多いという背景え、外国人をメインターゲットするものすごくいいと思います。
ARというものを初めて知って、紙面に動画が映るのがすごいと思った。
ARの地図をつかったのを見たことがなかったので、とても印象に残りました。
ARの取り組みに期待
ARの活用
ARという技術を利用してすごいと思った。
地図にARを取り入れるのがとても魅力的だった！
学生主体で進んでいるのがよくわかった。
現代のニーズを上手く利用していたから。
ARというとてもハイテクなものを使用されていて、今の時代にそっているなと感心しました。私もあのマップを使って、あのルートを歩きたい。
これからも増加すると思われる訪日外国人にスポットを当てていたから。
関連ある地域
ARという技術を使った地域活性化に興味をもった。
ARという最新のツールを使い、挑戦していたため。
AR技術に目をつけるのが興味深く、東京では位置情報と連動して、江戸時代の地図の上に自分の現在地が表示されるというアプリがあるらしく、そういったのとコラボできればおもしろいと思う。
ARという存在を初めて知ったため
製造（ものづくり）と観光の関わりに挑戦
ただのマップではなく、ARを使ったマップがとても新しい発想だと思った。
手本に実際のマップがあり、これから犬鳴山に訪日外国人が増加するのか興味を持てた。
訪日外国人にわかりやすいよう、MAPを作ったりアプリで動画が見れたりして、面白いと思ったから。
最新の技術を取り入れて、パンフレットをつくっている点。スマホが普及しているからこそできることを取り入れている点。
外に発信していくという面ではまだまだ課題も多いと感じたが、最新の技術を取り入れている点が注目を引きやすくおもしろいと感じた。

## ②関西大学と池田市との連携協定に基づいた商店街活性化・にぎわい創出事業

地域連携と共に、学生同士の連携（他大学）などの要素も盛り込まれており、地域にも学生にもメリットがあると感じたため。
ゼミが発祥といえども、（現在は）学生有志で活動していること。
ゼミではなく、個人で活動しているところがすごいと感じた。
ゼミ単位で活動を行っていないところがすごいと思った。
子ども預かりサービスなど、興味のある内容でした。
関大、関学の将来へと活動をつなげてほしい。
池田市の行政と関わって活動している。
「池炭バーガー」を初めて知り、チキンラーメンを使っていると書いてあるので、食べてみたいと思ったからです。
池田市の商店街をよく知っていて、期待
行政とのつながり
おもしろい活動をしている
プレゼンが良かった。
イベントがとても楽しそうで私も参加したいと思えたから。
行政や地域の方との協力がしっかりとされている感じががして、参考になる点がたくさんあったから。
寂しくなった街を、人を活性化させたいという思いとニーズに合わせて他方面への活動があった。自分たちの活動と少し重なるところもあり、興味をもった。
商店街の一角を利用して、年間を通して活動を行っていることに魅力を感じたから。
（商店街だけでなく）、もう少し工夫をすれば、池田市をPRする方法があると思ったから。
ゼミなどの活動ではなく、自主的に集まった学生たちで活動をしているところがすごいと思った。
ゼミ活動ではなく、自分たちが作った団体での活動であること、また2つの大学のコラボであることに関心を持った。
自主的に活動している団体であり、B級グルメ大会優勝をした池炭バーガーや町の人との連携がよかった。
充実した活動内容。なぜ両大学がコラボしているのか。
学生の主体性が大きい、大きすぎると感じた。それだけに負担も大きいだろうし、どんな苦労があるかなど、もっと聞きたかった。
複数の大学によるにぎわい事業なので

### ③体験学習法を基盤にした地域連携活動 KU cafe at 扇ヶ浜ビーチ

楽しみながら成長しているというのがすごく伝わる。
発表者、ゼミの雰囲気、「らしさ」が出ていた。感じる事ができて良かった。
体験学習を通じて、組織論を学び、自ら「活性化」のサイクルを見つけ出していることに感心した。
学生ならではの発想で、学生にしかできない活動を行っているところが良かった。楽しそうだった（活動内容が）。
発表を通じて、自ら体験することの楽しさが伝わってきた。
発表がわかりやすく、やっている内容もおもしろかった。体験学習法がCaféの売り上げにつながっていることがわかった。
学生が運営している。
ゼミの仲間の思い出づくりがメインのように見え、聞こえたのですが、どのような海の家で、他との違いなどをもっと詳しく知りたいと思ったからです。
楽しむことを重視していたので、すごく楽しそうだった
Twitter、Facebookを活用していると聞いたから
元気だった。
マイクを使わずのプレゼンテーションや映像がとても良かった。
外の絆も中の絆も大事にしている姿勢に感動したから。
メンバーの仲が良く、協調性が見受けられたから。
とても活動的で様々な活動を企画し、実行していたから。
前年よりも伸びた売上がメンバー全員の団結だと感じた。
大きな大学ならではの取り組みとして面白い。
体験学習法を基盤にした地域との連携活動がとてもおもしろいと思った。
様々な体験を体験学習というシステムを生かしながら行っていたところが良かった。
積極的な活動、学生動員数
元気があった
体験をキーワードとした取り組みの内容やその成果がわかりやすく、チームとしての一体感と勢いを感じることができたため。
みなさんの仲の良さが実際に活動に結びついているということがよくわかりました。
ただ地域のためだけでなく、活動している例が楽しめる場が多く、考えられていると感じた。

#### ④地域がつながる場づくり

八尾市と一体になって地域を盛り上げていてすごいと思いました。
・地域とのつながりでイベントをしていると点で連携内容が似ている。 ・今後協力できそうな内容です。
私たちが行っている活動へのヒントとなった。
わかりやすく、地域との連携に力を入れていることがよくわかりました。楽しそう！
「はちのじ」の人達は、ほとんどが八尾出身ではないと言っていたので、たくさん考えたと思うので、フェスティバルなどにも出ていて、見てみたいと思ったからです。
八尾市との連携で大きなイベントを毎回しているのには興味がわき、行ってみたいと思った。
ハンドアウト、スライドの見せ方に統一感があり、見やすかった。自治・民間企業を巻き込んだの事業だった。
まず、八尾の良さに気づいてもらおうと、その地域の人々としっかり交流しているのがいいなと思いました。地域連携のポイントもわかりやすかったです。
1つのイベントから派生させて「自分たちにできることは何か？」を考えた活動を行っていることに魅力を感じたから。
我々の団体と似ている部分が多く、参考になった。
発信、企画、準備、体験はサイクルになっていないと感じたので、一回の活動だけでなく、他のことにも活用してほしい。
八尾をどうにかしたいという熱意、思いを抱いて、同じ志向の人々と協力しているところが良かった。
充実した活動内容。見やすいPPT（よくまとまっている）
同じ大学の学生活動なので。
地域とのつながりを強く感じ、学生も学ぶことが多いと思いました。

⑤泉州 RUSH プロジェクト&熊取町連携～地域プロモーションバスツアー事業～

バスツアーは現在いろいろなものがあるが、移住を勧めるためのものは斬新でおもしろいと思う。街としてもその街を気に入った人も双方が良い関係になる。
過疎化が進むなかで、こういった事業はいいと思った。
テレビにもうつって活動内容がよくわかり、興味深かった。
泉州地域に住んでいるので、もっともっと他の人にたくさんの良いところを知ってほしいと思ったから。
バスツアーの企画
継続の力
活動期間が長いメリットがあった。
地域に呼び込む方法として、観光バスで呼び込んでいたり、これから他の地域でも活用できればいい活動だと思ったから。
観光学部らしいツアーをたくさん考えられていて、私たちにはできないことをしていてすごいなと思いました。都会の田舎をテーマにしているのもいいなと思いました。
大阪のイメージは真逆の町に対して大阪人に発信していくのは魅力的だと思う。
魅力があるのに、過疎化が進んでいる地域にフォーカスをあて、特に移住を考えやすい小さい子どもがいる家族向けにPRしているのが良いと感じたから。
関連ある地域
キャンパスが泉州にあるため。
キャンパスも今自分が住んでいるところも泉州（堺市）のため。
ツアーを通じて地域とどのような利点があったか、またなぜこの場所を選んだのかを知りたい。ツアーの様子だと自己満足になる。
私の地元が泉州にあるので、このプロジェクトに共感がもてました。
学生の企画するツアーと行政の要望（移住促進）が一致している点が面白い。
学生がこまでするのかと驚かされた。様々な市へ応用できる事例なのではと感じた。
地域の住みたくなる街を見直すとても良い取り組みだと感じた。私も参加したくなりました。

## ⑥大阪環状線改造プロジェクト「桃谷アートミュージアム」

JR 西日本という誰もが知っていて影響力のある企業と協力することや桃谷美人などの企画も親しみやすく、ゆるキャラも有効に使っていて、もっと大きくなるものと思ったから。
駅を中心に街の活性化をねらいにしているオモシロイと思った。各大学、最寄り駅があると思うので最寄り駅から地域活性化ができるのではと思った。
桃谷を活性させるということで、ポスターをつくり、桃谷の人をモデルにしていたこと、見返り美人や活動美人など面白いジャンルで桃谷の人々の魅力を伝えていた。
ポスターが魅力的だった。
発表がまずわかりやすい。また課題に対する取り組みがおもしろい興味深かった。
電車に乗る人の目にもとまるものの製作ということで、責任感がすごそうな活動だからすごいと感じた。
学生の得意分野での企業とのコラボレーションで地域と一緒にというのを強く感じ、すごいと思った。
ポスターのクオリティがすごく、驚いた。自分もコリアンタウンに行くときの通路にしていたので、もっと注意していきたいです。
企画の立案法に興味をもったため
大阪環状線が確かにわかりにくく、駅の中が迷路のようで、日本で3年間住んでいるけどわかりにくい。その構造がもっと便利にわかりやすくなると思う。
環状線は乗りますが、反対の線に乗ることがほとんどなので降りてみたいと思ったからです。
ウグイス嬢のように通った声。ポスターがとてもすごく考えられていた！
プレゼンテーションの発声はとても聞き取りやすく、良いプレゼンだと感じました。
アートの視点でとても刺激を受けたから。
自分たちに得意分野を生かしてプロジェクトが行われていたから。
JR 西日本という大きい会社と地域連携をしていたから。コンセプトがしっかりしていて活動の影響は大きそう。
普段私も含め、多くの人が使うところにフォーカスが当てられていた。1つの事業に対し、いくつものセッションに分かれ、それぞれに特徴を持った工夫がなされていた。
JRと連携していることがすごいなと思いました。そしていくつもの企画を考えて、とてもかわいらしいものばかりでにぎやかになるなど感じました。
自分にはない能力で人へ地域の魅力を伝えているので興味をもった。
自分達の専攻分野を活かした地域連携であったと思ったから。
まちの人の魅力も同時に伝えられるポスターが素敵だと思ったから。
その学部だからこそ特徴を強く感じた
店主をキャラクター化しての宣伝、またそれに関するマップなど広報についてとても参考になれたため。
3月のセレモニーが終わってから何もしていないのか。JRの利用が増減したのか。ポスターはどうやって広告したのか。わからないのにどんな目的？
経済学部にはないデザインの分野はとても魅力的だと感じたから。
デザインや企画などがとてもおもしろいと感じた。
桃谷アートミュージアムは芸術専攻とのコラボができています。
まずは、はきはきして聞いて聞きやすかった。環状線は自分もよく使用し、身近な話題だったので興味があった。
充実した活動内容。芸術学部らしい、大学生らしい発想。
桃谷アートミュージアムを見せてもらったことがあったが、あのようをしていたのかとわかった。桃谷駅以外の駅でもしてほしいと思う。
とても目のひかれるデザインで、歩いている人も立ち止まるようなもので、地域活性につながると感じた。
取り組みの経緯や成果物の発表が非常にわかりやすく、地球の人をキャラクター化する取り組みはとてもユニークで印象に残ったため。
実際にグループにわかれて独自のテーマをもって活動していることがわかり、視覚的にもおもしろかったです。
芸術の技術と街の雰囲気盛り上げる目的がうまく合わさったプロジェクトだと感じた。
アートを使って駅周辺を盛り上げようというのがおもしろいと思った。また、その商店街の人をキャラクター化するという発想が素敵だと感じた。
桃谷を詳しく調べており、おもしろかった。大学の色が出ていた。

⑦地域のコミュニティー拠点における大学生の地域参加

短期間の活動ではあったが、中身は面白い。



## ⑧河内木綿プロジェクト

昨年よりも進歩が形として見られたのは素晴らしいと思いました。
一から木綿をつくり、そこでも大変なことや身についたことがたくさんあると思うのですが、その後に染めたり、プレゼン、取材などメンバーが主に行っているとプレゼンを聞いて思ったので、このような商品が増えれば良いなと思ったからです。
実績にとっても感動した。
同じ八尾市で活動する団体として興味があったから。
昨年も発表を聞いていて、今年作った製品（名刺ケース）を実際に見れ、事業の進歩が伺えたこと。質問に対する受け応えがはきはきしていて、これも自身の努力の結果だと見えたこと。
取り組みの中での成長を感じられたから。
実際に地域の人々とかかわる機会が少ないと感じた。もう少し自分たち目線よりも地域の人目線に立つべきだと感じたため。
成長するという点。6次産業に興味を持った。
「6次産業」の意味に感動した。
地域との連携が少なすぎるのでは。会社よりもっと学生らしさがあった方がいいのでは。
充実した活動内容。自己完結型で自主性あり。
6次産業化までするのはスゴイ
地域産業の活性化に寄与する活動を実施していることがすばらしい。

⑨大阪国際大学×京阪百貨店 開業30周年記念コラボ商品開発

一から企画し、成功につながったのはすごいことだと思った。
大学学生生活の早い段階から開発に取り組んでいること。
色々な方向から地域と繋がれる。衰退している地域へ行くことだけが地域連携ではないと学んだ。
自分が守口市に住んでいるため
企業とのコラボで商品企画に行っていて、ターゲットもほぼってニーズを確認し、連携できていたから。自分たちの意見もこだわりをもっておしていた。
多くの調査をしたうえで、キャスケット、女優帽に決定したのだと苦労が伝わってきました。この帽子、ほしいなと思いました。
何回も業者と話し合い、長期にわたる連携であったから。
自分たちと似ているような活動をされていたから。
私自身、製品開発を行っているので、とても興味深かった。
実際に商品を販売している点。
商売が好きだから。
客層の調査から始め、そのニーズのことを考えて行うことが重要だと気づかされました。
実際にマーケティングから販売まで実現化したことがすばらしい。

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

〒530-0001 大阪市北区梅田 1-2-2-400 大阪駅前第2ビル 4階

TEL : 06-6344-9560 FAX : 06-6344-9561

MAIL : [chiren@consortium-osaka.gr.jp](mailto:chiren@consortium-osaka.gr.jp) (事務局 地域連携担当)

URL : <http://www.consortium-osaka.gr.jp/>